

第五十九回帝國議會
衆議院

競馬法中改正法律案外一件委員會會議錄(速)第五回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
競馬法中改正法律案(政府提出)

會 議

昭和六年三月十七日(火曜日)午前十時
三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 中馬 興丸君

理事 春島東四郎君

理事 山内 亮君

理事 高橋 守平君

理事 高橋熊次郎君

理事 藤井 達也君

前田卯之助君

佐藤謙之輔君

西村金三郎君

本田 義成君

大石 倫治君

堀部久太郎君

同日委員佐藤重遠君辭任ニ付其ノ補闕
トシテ久山知之君ヲ議長ニ於テ選定セ
リ

出席國務大臣左ノ如シ

陸軍大臣 宇垣 一成君

農林大臣 町田 忠治君

出席政府委員左ノ如シ

陸軍政務次官 子爵伊東二郎丸君

陸軍參與官 吉川吉郎兵衛君

陸軍少將 小磯 國昭君

農林參與官 山田 道兄君

農林省畜產局長 戸田 保忠君

農林書記官 田淵 敬治君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左
ノ如シ

陸軍騎兵大佐 高波 祐治君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
競馬法中改正法律案(政府提出)

○中馬委員長 只今カラ競馬法中改正
法律案ノ委員會ヲ開キマシテ、前回ニ

引續イテ質問ヲ許シマス

○川島委員 私ハ陸軍大臣ニ對シテ二
三點質問致シタイノデアリマスガ、先

達ノ本會議ニ於キマス私ノ質問ニ對シ
テ、陸軍大臣ヨリ御答辯ニ相成ッテ居ル

點ニ付テ、重ネテ御聽キヲスル次第デ

アリマス、陸軍大臣ノ先達ノ御答辯内

容ハ、結局二ツニ分レテ居ル、其一ツ

ハ現在ノ馬ノ總數デ果シテ國防上不都

合ハナイカト云フ私ノ質問ニ對シマシ

テ、大臣ハ「馬ノ總數ハ、凡ソ百五十萬

頭バカリデアリマス、其中カラ四歲以

下ノ幼馬ト、十六歲以上ノ老馬ヲ除キ

マスル時ニハ、地方馬ノ中デ軍用ノ資格

ヲ有シテ居ルモノハ凡ソ五十九萬頭バ

カリアリマス、其中カラ更ニ又妊娠シ

テ居ル馬約十二萬頭バカリヲ控除致シ

マスルト、直ニ軍用ニ供シ得ベキ數ト

云フモノハ、四十七萬頭内外ニナルノ

デアリマス、此數ハ戰爭ノ初期ノ需用

ニ應ジ得ラレマスガ、戰爭ガ少シク長

ク繼續スルト、又規模ガ意想外ニ擴大

シテ來ルト云フヤウナコトニナリマス

ルト、ソコニ不足ヲ感ズルト云フヤウ

ナ次第デアリマス、斯様ナ次第デ現狀

ニ於テハ満足ヲシ、結構デアルト申上

ゲ難イノデアリマス」ト云フ御答辯デ

アリマシテ、現在ノ百五十萬頭デハ軍

事上不足ダト云フコトヲ御話ニナッタ、

ソレカラモウ一ツ質問ト致シマシ

テモ「改良向上ト云フノハドウ云フ方

面ニ改良ヲシ向上ヲ圖ルカト申セバ、

持久力ノ強イ、且ツ用途ノ廣キ馬ヲ多

ク作ルト云フ方面ニ向ッテ進ミタイト

思ウテ居ルノデアリマス」此二點ノ御

答辯ニ相成ルノデアリマスガ、ソコデ

私ハ先ヅ數ノ問題カラ御聽キ申上ゲタ

イノデアリマスケレドモ、御承知ノ如

ク大正十二年ニ初メテ本案ガ議場ニ現

ハレタ際ニハ、馬政ノ主管ハ陸軍省デ

アリマシテ、當時ノ山梨陸軍大臣ノ御

説明ニ依ルト、國防上ノ必要カラ見マ

シテ、二百萬頭維持ト云フコトガ必要

ダ、二百萬頭ヲ目標ニシテ馬政計畫ヲ

立テ、居ルノダト云フ御説明ガアッタ、

貴衆兩院トモソレヲ諒承シテ、競馬法

ニ贊成ヲシタノデアリマス、然ルニ昭

和四年本案ニ對シマスル一部改正案ガ

出マシタ際ニ、陸軍當局ノ御説明ハ、

其二百萬頭ノ計畫ハ全ク拋棄サレテ、

百五十萬頭維持ヲ以テ目的トシテ居ル

ノダ、斯様ナ御説明ニ變化ヲシテ來タ、

私共ハ果シテ今日陸軍ガ幾萬頭アッタ

ナラバ、大體ニ於テ軍事上満足シ得ラ

レルノカト云フ見當ガ付カナイノデア

リマスガ、先ヅ此點ヲ一ツ陸軍大臣カ

ラシテ、御伺ヒ致シタイト思フノデア

リマス

○宇垣國務大臣 御答ヲ致シマス、只
今ノ總數百五十萬頭、之ニ對シテハ陸

軍當局ト致シテハ、不足ヲ感ジテ居ラ

ナイノデアリマス、唯其百五十萬頭ノ

中デ、資格ヲ向上シテ所謂合格率ガ多

クナルト云フコトヲ、今日ニ於テハ希

望致シテ居ルノデアリマス、全然二百

萬頭ガ必要デアルト云フコトヲ申上ゲ

タ時代モアリマスルガ、其當時ノ國防

ノ計畫ハ、諸君ノ耳ニモ舐舐ニナルヤ

ウニ入ッテ居ルト思フノデアリマスガ、

戰時編制五十師團ト云フヤウナコトヲ

基準ニ置イテ、馬ノ數等モ計算シテ居ッ

タノデアリマス、ソレデ二百萬頭ガ基

準ニナッテ居ルタノデアリマス、其軍事上ノ關係ハ變化ヲ致シテ來ルヤウナコトニ依リマシテ、先ヅ百五十萬頭ヲ標準ニシテ、其中デ資質ヲズツト向上シテ、合格率ヲ多クスルト云フコトニナレバ、遠キ將來ハ豫想モ出來マセスガ、近キ將來ニ於ケル戰ニ於テハ差支ナイ、斯ウ云フ考ヲ持ッテ居リマス、總數百五十萬頭、是デ結構デアリマスガ、其中ノ質ヲ良クシタイ、斯ウ云フコトガ希望デアリマス

○川島委員 大臣ノ御答辯デ分リマシタガ、併シ本會議大臣ハサウ仰シヤッテ居ラス、幼馬、妊娠馬ヲ差引キ四十

ニハ六萬七千頭、斯様ニ段々減ッテ來テ居ル、僅ニ昭和二年ニハ八千三百七十六頭殖エテ居ルガ、昭和三年ニハ再ビ減リマシテ、五百五十四頭減リ、四年ニハ三千九百九十六頭減ッテ居リマス、ソレデ大正十二年ト昭和四年ト比較致シマスルト、實ニ十萬頭以上ノ馬匹ト云フモノガ減ッテ居リマス、デ此減リマシタ原因ハ色々アラウト思ヒマシテ行ク趨勢ニ對シテ、陸軍大臣ハドウ云フ御考ヲ持ッテ居ルカ、モウ少シ馬ノ頭數ヲ殖ヤス必要ガアルト云フコトヲ御考ニナッテ居リマセスカ

○宇垣國務大臣 先キニ答辯致シマシタ中ニ、本會議デ私が申上ゲタコト、矛盾デモ致シテ居リハセスカト云フヤウナ御説ニモ觸レテ居ッタヤウデアリマスガ、本會議デモヤハリ總數百五十萬頭ノ維持ガ必要デアル、其中デ現狀ニ於テハ四十七萬頭バカリシカ、百五十萬頭ノ中直ニ軍用ニ適スルモノガ存在シテ居ルダケデ、是デハ不足デアアル、ダカラ此四十七萬頭ハ六十萬頭、七十萬頭ニシタイ、斯様ニ致シタイ軍部當局ノ希望デアルト云フコトヲ、本會議デ申上ゲタ積リデアリマス、或ハ言葉足ラズシテ、御聽取ノヤウニ聞エタカモ知レマセスガ、左様ナ意味デアリマ

ニ馬ガ殖エルト云フコトハ、固ヨリ多益々辨ズルデ、軍部當局トシテハ非常ニ希望スル所デアリマス、併シ大體ノ趨勢カラ左様ニ多クヲ望ンダ所デ、今日デハムヅカシカラウ、ソコデ百五十萬頭ノ維持ト云フコト、百五十萬頭ノ中ノ素質ヲ改良向上シテ行ク、此二點ガ軍部當局トシテノ切ナル希望デア

○川島委員 私人質ノ問題ハ更ニ後ニ致シマス、數ノ問題ヲ先ニ御聞キシタイ、百五十萬頭維持ハ分ッテ居リマス、所ガ現在ハ段々減ッテ居リマス、競馬法ノ目的ノ一ツトシテ、馬ノ増殖ヲ圖ルニ拘ラズ、競馬法施行以來馬ノ頭數ガ減ッテ居ルト云フコトニ對シテハ、陸軍大臣ハ相當ニ御心配デアラウト思フノデアリマス、ソコデ今回政府ガ競馬法ノ改正ヲ出スニ付テハ、無論先刻來農林大臣ノ御説明ニ依ッテモ、馬ノ増殖改良ヲ目的トシテ今度出シタノデアリマシテ、救護法ノ財源ヲ作ルト云フコトハ、是ハ從タル目的デアルト云フコトハ、數回御説明ニナッテ居リマス、主タル目的ノ馬ノ頭數ヲ殖スコト、馬ノ質ヲ改良スルト云フ二點ニ於テ、數ノ問題ニ對シテ陸軍大臣ハドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカト云フコトヲ聞クノデアリマシテ、言葉ヲ換ヘテ言ヒマセバ、現在ノ競馬法ノ範圍デハ、馬ノ頭數ヲ殖

七萬アル、此數字ハ戰爭ノ初期ニハ應ジ得ラレルガ、長ク續クカ戰線ガ擴大スレバ、不足デアルト云フコトヲ言ハレテ居リマスカラ、私ノ再質問ガ出テ來ルノデアリマス、本會議ニ於テ陸軍大臣ノ答辯デハ、百五十萬頭ニ満足シテ居ラスト云フコトデアリマシタガ、今ノ御話ニ依リマス、百五十萬頭デモ質サヘ良クスレバ、宜イト云フコトデアリマス、然ラバ百五十萬頭ヲ必要トシテ、今日ノ日本ノ馬ノ趨勢ハドウカト云フト、競馬法ノ施行以來、馬ノ頭數ハズツト減ッテ居ル、大正十三年以來減ッテ居ル、十二年ト十三年ト比べレバ、十三年ハ二萬二千九百六頭、十四年ニハ一萬五千二百二十二頭、十五年

ヲ、更ニ殖ヤスト云フ方面ニ付テ考慮シテ居ルカドウカト云フ御問デアリマシタガ、此減少ト云フコトハ國防上甚ダ困ル話デアリマス、故ニ過日來度々申上ゲテ居リマス通りニ、百五十萬頭ノ維持ト云フコトヲ目標ニシテ、軍部トシテハ考慮ヲ致シテ居ル次第デアリマス

○川島委員 競馬法ヲ施行スル目的ハ、只今ノ増殖ト、質ノ改良ニアルコトハ、競馬法ノ第一條ヲ見テモ、明ニ分ルノデアリマスガ、競馬法ヲ施行致シマシタ大正十二年以來、漸次馬ノ頭數ガ減ッテ居ルト云フコトハ、言ヒ換ヘマ

スレバ競馬法ノ施行ニ依ッテハ、馬ノ頭數ハ殖ヤスコトガ出來ナイ、斯様ナ結論ニ相成ラウト思ッテ居リマス、今回政府ノ提案ニ對シテ、無論陸軍大臣ハ國務大臣トシテ御贊同ニナッタノデアリマセウガ、從來ノ競馬法ノ遣方デハ、馬ノ頭數ヲ殖スコトガ出來ナイ、是ハ國防上由々數問題デアリマスカラ、此際競馬法ヲ改正シテ、馬ノ頭數ヲ殖スヤウニスルノダ、斯様ナ意味デ御贊同ニナッタノデアリマスガ、又ソレトモ馬ノ頭數ト云フモノヲ殖スコトヲ考ヘズニ、今回ノ競馬法ニ御贊同ニ相成ッタノデアリマスガ、此點ヲ聞キタイト思ヒマス

○宇垣國務大臣 今ノ百五十萬頭以上

ヤスコトハ出來ナイ、ソコデ競馬法ヲ改正スレバ馬ノ數ガ殖エル、斯様ニ御考ニナッテ、今回ノ競馬法ノ改正ニ御贊同ニナッタノデアリマス、ドウカラ聞イテ居ルノデアリマス、斯様ナ意味デヘテ言ヒマスレバ、今度ノ競馬法ノ改正ニ依ッテ、馬ノ頭數ガドレ位殖エルカト云フコトヲ御期待ニナッテ居ルカ、斯ウ云フ意味ヲ聞キタイノデアリマス、馬ノ頭數維持ガ分ッテ居リマス、段々減ッテ居ルコトニ付テ陸軍大臣ハ相當ニ心配ニナッテ居ルニ相違ナイ、此心配ヲ競馬法ニ依ッテ陸軍大臣ハドウ御解決ナサル積リデアルカ、之ニ對スル御答辯ヲ願ヒタイ

○宇垣國務大臣 馬ノ減少ト云フコトハ、軍部當局トシテ、洵ニ憂慮致シテ居ル所デアリマス、此減少ハ競馬法施行以來ノ統計カラ見レバ、若干宛年々減ッテ來テ居リマス、是ハ事實デアリマス、是ハ減ル原因ハ幾多アリマセウガ、今ノ機械動力ノ發達ト云フコトガ、主ナル原因デハナイカト思ヒマス、若シ現在マデニ競馬法ノ施行ガナカッタナラバ、今日ヨリヨリ以上ニマダ減少ヲ致シテ居リハセスカ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、隨テ此度ノ改正ガ實現致シテ、競馬法改正ガ實現致シテ參ルト云フコトニナリマスルト、

大體ニ於テ百五十萬頭ノ維持ハ可能デハナイカト、斯ウ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、其意味ニ於テ農林當局ノ此度ノ改正ニ、贊同ヲ致シタ次第デアリマス

○川島委員 只今陸軍大臣ノ御答辯ハ、私ハ能ク分ラナイノデアリマスガ、今度ノ競馬法ノ改正ニ依ッテ、百五十萬頭ノ維持ヲ期待スルコトガ出來ルト云フ御話デアリマスガ、今度ノ競馬法改正ノ重點ハ、御承知ノ如ク從來一枚シカ賣レナカッタ馬券ヲ、複勝式ヲ併用シテ二枚ニ殖ヤスト云フコト、一ツハ六日ノ競馬日數ヲ八日ニ殖ヤスト云フコト、此二ツデアルガ、此二ツヲ施行シテ何處ニ一體馬ノ頭數ヲ殖ヤスコトガ出來ルカ、陸軍大臣ガ今度ノ競馬法ニ御贊成ニナッタ根據ガ分ラナイ、ソレハ如何デアリマス

テ產出ス平年度ノ二百萬圓、來年度ハ百萬圓デアリマスガ、其金ヲ馬事振興以外ニ使フト云フコトニ對シテハ、恐ラク陸軍當局ハ御贊成ナカラウト思フ、ナゼナレバ今日馬事振興ニ使ッテ居ル金ガ、十分有リ餘ッテ居レバ別問題デアル、併シ現在ノ趨勢ハ馬ノ數ガ漸次減リツ、アルカラ、益馬事ノ振興ヲシナケレバナラスガ、ソレニハ相當ノ金ガ要ル、而シテ一方競馬法制定ノ趣旨ト云フモノハ、是カラ產出ス金ヲ以テ馬事振興ヲシヨウト云フノガ鐵則デアッテ、馬事振興以外ニ使フトコトハ變態デアル、併シ是ハ陸軍大臣ノ御説明ニ依ッテ能ク分リマシタ

○宇垣國務大臣 只今御述べニナッタ改正ニ伴ッテ、増加致シマス收入ノ或ル部分ヲ以テ生産増加ヲ圖ル、即チ一面ニ於テ種馬ノ充實ヲヤリ、一面ニ於テハ牧野法ノ施行ヲ實現シテ、生産増加ニ資スルト云フ關係カラ、大體ニ於テ百五十萬頭維持ノ目的ヲ達シ得ルデアラウ、斯ウ云フ考ノ下ニ、此度ノ改正ニ贊意ヲ表シテ居ル次第デアリマス

ナコトガ期待サレルト御考ニナッテ居ルノデアリマス

○小磯政府委員 御說ハ一應御尤デアリマス、併シ競馬法實施以來軍隊ニ現ハレテ來マシタノハ、昭和三年秋カラノ補充馬デアリマシテ、之ニ依ッテ的確ニ將來ヲトスル譯ニモ參リマセヌガ、大體ニ於テ體重及體高ヲ増加シテ居リマス、ソレカラ競馬法ニ依ッテ軍隊ガ將來希望スルヤウナ馬ヲ多ク生産シテ賞ヒタイト云フコトノ爲ニハ、競馬ノ施行法ニ相當改良ヲ試ミル必要ガアラウト思ヒマス、即チ強健ナ持久力ニ富ミ、適當ナ高サデ、體幅ノ十分ナ馬、溫順ニシテ馴致ノ容易ナ馬、例ヘバ「アラブ」「アングロアラブ」ト云フヤウナ馬ヲ得ル爲ニハ、競馬ヲ致ス際單ニ速度競走バカリデナク、障礙競走、速歩競走ト云フヤウナ種類ヲ増加シ、又競馬場ノ施設ニ於キマシテモ馬場、傾斜、距離及競馬場ノ形狀ト云フヤウナ點ニ改良ヲ加ヘマシタナラバ、軍隊ノ希望スルモノヲ増加セシメ得ルダラウト豫期シテ居リマス

○川島委員 大正十二年競馬法ガ成立

致シマシテ以來約六箇年、其間主トシテ競馬ニ出ル馬ハ「サラブレッド」種ノ通デアッテ、陸軍ガ要求スルヤウナ馬ハ、競馬ニハ出テ來ナイ、ソコデ田中内閣ノ時ニ競馬法ノ一部ヲ改正スルト同時ニ、必ズ各競馬場ニ於テハ障礙競走、速歩競走ヲ施行サセルベク、「アラブ」「アングロアラブ」ナドト云フ馬ヲ盛シニ出スヤウニシタノデアリマスガ、ソレデモ陸軍ガ要求スルヤウナ中間種ノ馬ノ改良ハ出來ナイ、今回ノ競馬法ノ改正ニ依ッテ、陸軍ガ要求スルヤウナ馬種ノ改良ガ出來ルト御考ニナッテ居リマスカ

○宇垣國務大臣 出來ルト考ヘテ居リマス、又ヤラス積リデアリマス

○川島委員 出來ルト御考ニナル其根據ヲ御聽シタイ

○宇垣國務大臣 根據ト申シマシテハ、今ノ競馬場ノ施設トカ、競馬ノヤリ方トカニ付テ改善ヲ施シテ、漸次吾等ノ希望スル目的ニ到達致スヤウ、農林當局ト折衝ヲ進メテ行ク積リデアリマス

○川島委員 陸軍大臣ガサウ云フ御答辯ヲナサルノハ、競馬ノ實際ヲ御存ジナイカラデアリマス、一體今日ノ競馬ニドウ云フ種類ノ馬ガ出テ居ルカト云フコトヲ御存ジナイカラサウ云フ御答辯ヲ爲サル、政府委員カラ一ツ此問題

ハ御答辯願ヒタイノデスガ、今日ノ競馬ニ出テ居リマスノハ、「サラブレッド」「アラブ」「アングロアラブ」ガ主ナノデアリマス、昨日此點ニ付テ材料ヲ農林當局ニ御要求シテ居リマスガ、マダ戴キマセス、他ノ種類ハ僅カシカナイ、斯ウ云フ狀態デハ陸軍ノ要求シテ居ルヤウナ馬種ノ改良ハ出來ナイト考ヘ、現在ノ競馬ノ狀況ト云フモノハ、殆ド此三種ニ限ラレテ居ル、而モ「サラブレッド」ガ一番多イノデス、最近漸ク「アラブ」「アングロアラブ」ガ加入シタノデアッテ、モウ少シ軍事上必要ナ馬ヲ出シテ競馬ヲサセルト云フコトヲシナケレバナラヌノデアリマスガ、併シソレデハ競馬ヲ買フ方カラ言ッテ面白クナイ、「サラブレッド」「アラブ」「アングロアラブ」デナケレバ御客ガ付イテ來ナイト思ッテ、仕方ナシニ之ヲヤッテ居ル譯デアル、今ノ競馬法ニ依ッテハ、到底陸軍ノ要求スルヤウナ馬種ノ改良ハ出來ナイト考ヘテ居ル、此點ニ對シテ、政府委員ハドウ御考ニナッテ居リマスカ

○小磯政府委員 御質疑ハ至極御尤モト考ヘマス、御所見ノ如ク「サラブレッド」ノヤウナ馬種ガ競馬ニ出マスト云フ事柄ハ、今日ノ趨勢ノヤウニ考ヘテ居リマスガ、先程モ政府委員カラ説明申上ゲマシタ如ク、競馬場ノ施設ノ改善、竝ニ其實施ノ改良、譬ヘテ申シマシタナラバ、速足競走、竝ニ障礙競走ト云フヤウナ特殊競馬ノ種類ヲ、若シ出來得マシタナラバ、全競馬ノ約半分位ニ増加スルト云フコトニ致シマスレバ、今御話ニナリマシタ中間種ノ馬、例ヘバ「アングロアラブ」デアルトカ、「アングロノルマン」デアルトカ云フヤウナ馬ガ漸次増加シテ來ルダラウト云フコトヲ豫期シテ居リマス

○高橋委員 宇垣陸相ガ此委員會ニ御出馬ナサタコトニ付テハ、ドウカ一ツ大ニ經綸抱負ヲ伺ヒタイト思フノデアリマスガ、此競馬ニ付テ、ドウ云フコトガ陸軍ノ產馬獎勵ノ御方針ニ適フカト云フコトヲ私共ハ伺ヒタイノデスガ、ソレニ付テハ陸軍ハドウ云フ御方針デ馬種ノ改良、馬事思想ノ振興ニ對シテ居ラレルノデアルカ、馬事振興、馬產、馬種改良ト云フコトニ付テノ方針ヲ陸軍大臣ヨリ承リタイト思ヒマス、ソレニ依ッテ競馬ガドウ云フコトヲ現在シテ居ッテ、御趣旨ニ副フヤ否カト云フコトヲ吾々ハ吟味シタイト思フノデス

○宇垣國務大臣 類似シタ御問ガ先刻來アリマシテ、御答辯申上ゲタ點モアルト思フノデアリマスガ、陸軍ト致シマシテハ、馬ノ總數百五十萬頭ノ維持、其百五十萬頭ノ中ニ於テ、俗ニ申ス合

格率、即チ馬ノ資質向上ヲ致スト云フコトヲ大體標準ニシテ馬政ノ方ハ進メテ行ケバ宜イノデアリマス、馬ノ資質ノ向上ト言ヘバ、ドウ云フ資質ヲ要求致シテ居ルカト申シマス、先ヅ性質ガ極ク溫和シクテ、馴致ノ良好ナルモノ、強健ニシテ持久力ニ富ンデ居ルモノ、體ノ高サガ適度ニシテ又相當ニ體ノ幅ヲ持ッテ居リ、其他飼養管理ノ極メテ容易ナル馬ガ必要デアル、斯ウ云フ大體性能ヲ具ヘタ馬ヲ造ッテ貰ヘバ、所謂吾等ノ欲スル資質ノ向上ノ目的ヲ達シ得ルノデアリマス、其目的ヲ達シマス爲ニ、競馬ノ現狀ガ全ク要求ヲ滿シ得ル如クニ實施サレテ居ルカドウカト言ヘバ、先刻來政府委員カラ申シマシタ通りニ、競馬場ノ施設又競馬ノ施行方法等ニ於テ、今後ニ於テ尙ホ相當ノ改善ヲ施サザル限りハ、十分目的ヲ達シ難イカモ知レマセス、從テ其方面ニ向ッテ、更ニ農林當局ト密接ナル聯繫ヲ取ッテ、ソレヲ實現致スベク努力スル考デアルト云フコトヲ先刻來政府委員等モ申上ゲテ居リマス通り、私モ無論同様ノ方針デ進ンデ居ルノデアリマス

○戸田政府委員 先程川島サンカラノ御尋ニ對シテ、軍務局長カラ御答ガアリマシタガ、競馬ノ實際ニ付テ一應補足シテ御答ヲ致シテ置キタイト思ヒマス、ソレハ競走ノ回數ト、軍事上要求

スル馬トノ關係デアリマスガ、競走回
數ヲ昭和四年ト昭和五年ノ實際ヲ比較
シテ申上ゲマスレバ明瞭デアルト思ヒ
マス、詰リ軍部ノ要求ニ適合スル競走
回數ノ増減ガ行ハレテ居ルデアリマ
ス、ソレハ駈足競争ニ於テハ「アラブ」
系ノ馬ノ出ルヤウニナリマシタ回數ガ
四年ニ比シテ五年ハ著シク増加ヲ致シ
テ居リマス、ソレカラ三年ニ比シテ五
年ハヤハリ増加致シテ居ルデアリマ
ス、是ハ軍用ノ乘馬級ノ馬ヲ造ル基礎
トナル種類デアアルデアリマス、「サラ
ブレット」系ノ方ハ減少シテ居ルデ
アリマス、ソレカラ障礙競走ハ、強健
ナル馬ヲ造ル爲ニ、其基礎トナル必要
ナモノデアリマスガ、此障礙競走ガヤ
ハリ昭和三年ニ比シ昭和四年、及ビ昭
和四年ニ比シ昭和五年ハ障礙競走ノ競
走回數ガ漸次増加致シテ居リマス、ソ
レカラ速歩回數ハ、是ハ中間種系ノ馬
ヲ能力鍛練スルデアリマスガ、此速
歩競走ニ於テモ、回數ガ三年四年ニ比
シテ五年ハ著シク増加致シテ居ルデ
アリマス、ソレカラ出走馬ノ出走數カ
ラ申上ゲマシテモ、只今ノハ競走回數
デアリマスガ、實馬數カラ申上ゲマシ
テモ「アラブ」系ノ馬ガ五年ニ於テハ、
四年或ハ三年ニ比シ著シク増加致シテ
居リマス、ソレカラ「サラブレット」系
ノ方ハ、若干減少致シテ居リマス、ソ

レカラ障礙競走馬ノ數モ著シク五年ハ
四年ニ比シ又三年ニ比シ増加致シテ居
リマス、ソレカラ速歩馬ノ數モ四年ニ
比シ五年ハ増加致シ、又三年ニ比シ更
ニ増加ヲ致シテ居ルト云フヤウナ狀況
デゴザイマシテ、是ハ御手許ニ表ガ差
上ゲテアル筈デアリマスガ、サウ云フ
ヤウナ狀況デアリマスルガ故ニ、競馬
ガ軍部ノ要求サレルヤウナ能力鍛練ノ
方法トシテハ、漸次改善サレツ、アル
ト云フコトヲ實際ノ數字ノ上デ物語ッ
テ居ルモノデアリマス

○高橋委員 數字ノ上デ物語ッテ居ル

ト云フ今畜産局長カラ御話デアリマス
ガ、是ハ五十歩百歩ノ問題デ幾分力左
様ナ嗅ガスル位ナ程度ダラウト思フノ
デアリマス、左様デアリマスカラ實際
陸軍御當局ノ希望シテ居ルガ如ク競馬
ノ趨勢ガ進ンデ居ルトハ、吾々ハ考ヘ
得ラレナイデアリマス、只今陸軍大
臣ノ御答辯ノ中ニモ、性質ガ溫良デア
テ、強健デアッテ耐久力ガアルモノデ、
殊ニ飼養管理ニ容易ナルモノト云フヤ
ウナ御説ガアッタノデスガ、至極御尤デ
アリマス、併シ今日競馬馬ノ大多數ヲ
占メテ居ルモノハ、悉ク御趣旨ニハ副
ハナイモノト斷定シテモ差支ナイ位ノ
程度ニ行ッテ居ルノデハナイカトサヘ
吾々思フノデス、飼養管理ニ至ッテハ、
一度出場スル毎ニ、總掛リデ其汗ヲ拭

キ取ッテヤラナケレバ健康ガ保テナイ
ト云フヤウナ馬ナドヲ、軍馬ナドニハ
到底御用ニ立テテ譯ニハ行クマイト思
フ、殊ニ今日軍馬ノ單一——軍馬ト申
スト語弊ガアルケレドモ、日本ノ産馬
ノ統一ヲ圖リ、成ルベク單一ニ近イヤ
ウナ馬種ノ制限ヲヤリタイト云フノデ
御努メニナリ、以前ハ非常ニ雜多ナ、此
馬ガ良イ、アノ馬ガ良イト言ッテ、色々
ナ種類ヲ入レタト云フガ爲ニ、洵ニ馬
格ト云フモノヲ一定シナイ、改良ノ上
カラ非常ニ煩雜ヲ致シ、又馬ノ性質カ
ラ言ッテモ、喜バシクナイト云フノデ、
馬政計畫ヲ御立テニナルト云フ時分
ニ、種馬ノ單一制ト云フモノヲ御定メ
ニナッテ居ル、成ベク馬種ヲ一定致シタ
イ、斯ウ云フコトニ氣ガ付カレテ、其
方面ニ進マレタト云フヤウニ吾々ハ承
知シテ居ル、何處ヘ行ッテ見テモ、ヤレ
洪牙利ノ「ギドラン」デアルトカ、佛蘭
西邊ニ行クト、「アングロノルマン」或
ハ「アングロアラブ」デアルトカ、種々
雜多ナ馬ヲ選バズニ、成ベク風土ニ合
フヤウナ、一ツカ或ハ二ツノ單一ナル
方向ニ向ッテ居ル、勿論乘馬ト輓馬トノ
間ニハ多少違ヒガ生ズルダラウケレド
モ、兩用ニ向クト云フヤウナ標準デ以
テ、成ベク單一ナル馬種ヲ選ンデ進ミ
得ルナラ進マウト云フコトニ、各國ガ
努力ヲ致シテ、稍、成功シテ居ル、我國

モ此先進國ノ方針ニ倣ッテ、種々雜多ナ
馬種ヲ成ベク單一ニシタイト云ッテ統
制ヲ圖リツ、アルコトハ吾々モ承知シ
テ居ル、競馬ニ付テモ、種々雜多ナ——
陸軍モ要求シテ居ラズ、國民モ實用ニ
向クト思ッテ居ラヌヤウナ馬種ヲ出場
セシムルコトハ、「フアン」ヲ満足セシ
ムルニハ足ルカモ知レス、入場料ヤ、
馬券ノ賣得金ヲ増スト云フコトハ、ソ
レデ適フカモ知レマセヌケレドモ、馬
產——競馬ノ眞ノ目的、馬事ノ改良、馬
事思想ノ普及ト云フコトニ付テハ大シ
タ利益ノ無イ事デアリ、寧ろ害ガアル
ト云フヤウナ工合ニ吾々ハ認メテ居ル
ノデス、ソレデ今日陸軍大臣ガ御述ベ
ニナリマシタヤウニ、陸軍ノ馬政ノ方
針ヲ茲ニ置クノダト云フ大體抽象的ノ
方針ハ承リマシタ、然ラバ私ハ陸軍ハ
乘馬トシテハ主トシテ如何ナル種類、
或ハ輓馬トシテハ如何ナル種類ヲドノ
位要求シテ居ルノデアルカ、又駈馬ト
シテハドウ云フ種類ノモノヲドノ位ノ
程度ニ要求シテ居ルト云フコトハ、確
實ニ御定メニナッテ居ラダラウト思ヒ
マスルシ、又現在陸軍ニ保有サレテ居
ル所ノ是等ノ馬種ハドノ位アルカト云
フ事ハ明ニ分ッテ居ル筈デアリマスガ
ラ、是等ノ事ヲ承知ヲ致シタイト思フ
ノト、ソレカラ百五十萬頭ヲ標準トシ
テ進マレルト云フノガ馬政計畫ノ第一

頁ニ謳テアル事デアリマスガ、吾々ハ

スル所ニ到達致スノデアリマス

今日農林省ノ發表サレル所ノ馬數ノ統

トニナリマシテモ、其血ノ配分ノ程度

ニ屬スルモノガ百十三頭アリマシテ、

計ハ信用致シマセヌ、是ハ陸軍ガ實地

ガ分ラナイト云フヤウナ關係デアリマ

其中乘馬トシテ取ッテ居リマスノハ四

ニ就テ御調べニナッタ實數ガアル筈デ

スカラ、別ニ陸軍ガ其事ニ付テ怠ッテ居

頭、輕馬トシテ取ッテ居リマスノハ八

アリマスカラ、其數字モ此場合明ニ御

ルト云フヤウナ意味デアリマセヌ、

十八頭、輕馬トシテ取ッテ居リマスノハ

示シテ願ヒタイ、今ヨリ三四年前

考ヘテ居リマスケレドモ、要スルニ今

二十一頭、種類不明ノモノガ三百九十

四五年ニモナリマスカ、嘗テ伺ヒマシ

ノ程度ニ於キマシテハ、血ト云フモノ

四頭ノ中、乘馬ニ用ヒテ居リマスノハ

タ時分ニハ、百三十五萬頭内外ノ數字

ノミニ付テ統計的ニ全部ノ馬ニ付テ舉

百七十三頭、輕馬ニ充テ、アリマスノ

ヲ御示シニナリ、農林省ノ示サレル數

グルト云フ譯ニハ參リマセヌ、併ナガ

ハ八十九頭、輕馬ニ充テ、アリマスノ

字トハ、餘程距離ガアツタ、今日ニ於テ

ラ昭和四年ニ調べマシタ、主ニ軍馬補

ハ百三十二頭デアリマス、斯ウ云フ狀

モ、其數字ト云フモノハ餘リ變更ノナ

充部ノ馬ニ付テノ數字ガアリマス、ソ

況デアリマス

イモノトモ考ヘテ居リマスカラ、是等

レニ依リマス、是カラ補充ヲ受ケル

○高橋(熊)委員 只今伺ッタ數字ハ軍

ノ明カナル數字ヲ、吾々馬產ニ興味ヲ

馬補充部ニ繋留シテアル馬ノ内譯ト承

知シテ宜シイノデアリマスルカ、内譯

持ッテ居ル者、又之ヲ憂ヘテ居ル者ニ對

トシテハ少シ足ラナイヤウデアリマス

ガ、其點ガ一寸不明デアッタノデスガ、

ツテ、頂門ノ一針トシテ是等ノ明ナル

不明ニナッテ居ルモノ、此四ツニ分ケテ

ソレハドウ云フコトニナッテ居リマス

數字ヲ御示シアランコトヲ希望スル次

調査ヲ致シテ居リマス、輕種ニ屬スル

カ

○宇垣國務大臣

乘馬用トシテハ「ア

モノデ、乘馬ニ買上ゲテ置クモノハ千

○高波騎兵大佐 是ハ軍馬補充部デ昭

ラブレトカ或ハ「サラブレット」「アング

和五年ニ購買シマシタ數ヲ、斯ウ云フ

ヤウニ區別ヲシマシテ、此中ニ二歲購

ロアラブ」斯ウ云フ種類ノモノヲ希望

買ガ千七百五十六頭デアリマス、三歲購

買ガ八百三十八頭デアリマス、成馬トシ

ヲ致シテ居リマス、又輕種馬トシテハ

テ直ニ軍隊ニ補充シマシタノハ千三百

八十三頭デアリマス、斯ウ云フヤウニ、

「アングロノルマン」「ハクニー」、重種

年々大體コンナ比率デ軍馬ヲ購買シテ

居ルト云フヤウニ御考下サレバ、血種

馬トシテハ「ベルシュロン」ト云フヤウ

ノ方モ御分リニナルト思ヒマス

○高橋(熊)委員 サウシマスルト、大

ナモノ、其乘馬、輕種馬、重種馬ノ比

體陸軍ガドウ云フ方面ニ見當ッ付ケテ

居ラレルカト云フコトハ分ッテ居ルノ

率ハ、乘馬ノ方ガ十乃至十五「プロセ

至十「プロセント」、斯ウ云フ大體ノ比

調節ヲサレテ行ケバ、最モ吾々ノ希望

ニナッテ居ラナイ、其上ニ何雜ト云フコ

デアリマス、中間種ニ重キヲ置カレテ居ルト云フコトモ分ッテ居ルデアリマスガ、乗馬ニモ用ヒラレ、或ハ輓馬ニモ用ヒラレ、斯ウ云フ便利ナ種類ニ目ヲ著ケテ置カレル、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、サウ致シマス、競馬ニ於キマシテモ、中間種ヲ最モ重キヲ置イテ、是ノ能力、馬格等ニ於テ、國民ノ鑑別力ヲ與ヘルト云フ方面ニ力ヲ用フベキダラウト吾々ハ考ヘテ居リマス、陸軍大臣モ、競馬モ左様ナ方向ニ進ムベキコトヲ希望シテ居ラレ、又左様ニ行ッテ居ルモノト御斷定ニナルノデアルカドウカト云フコトヲ今伺ッテ置キマス

○宇垣國務大臣 左様ニ行ッテ居ルト斷定ハ致シ兼ネルノデアリマスガ、併シ左様ニ致シタイモノデアルト云フ希望ハ有シ、又其希望ニ向フベク將來ニ於テ益々努力スル考デアリマス

○高橋(熊)委員 私ハ同僚ノ質問ニ横槍ヲ入レタノデアリマスカラ、同僚ノ質問ニ戻ルコトヲ希望致シマス

○藤井委員 此問題ハ洵ニ重要ナ問題デアッテ、馬事振興ト云フ、此目的ハ要スルニ産業ノ方面ニモ必要デアリマスケレドモ、軍事ノ方面ト云フコトガ、最も大切ト考ヘテ、國家ガ馬事ノ振興ヲ圖ッテ居ルト思フノデアリマス、故ニ馬事振興ノ財源ヲ他ノ方面ニ使用シヨウ

ト云フヤウナ場合ニ當リマシテ、陸軍當局トシテハ慎重ナル考ヲ以テ之ニ善處シナケレバナラスト思フノデアリマス、若モ一タビ馬事振興ニ使用スル金ヲ他ノ方面ニ使用スルト云フヤウナコトヲ許スヤウナコトニナリマス、將來幾多ノ内閣ガ出來マシテ、或ハ社會事業デアルトカ、或ハ防貧ノ方法デアルトカ救貧ノ制度デアルトカ、斯ウ云フヤウナ一種ノ社會事業ト云フ名ノ下ニ、之ニ藉口シテ馬事振興ノ爲ニ必要ナル財源ヲ此方面ニ持去ラル、ノ憂ガ非常ニアルト考ヘマスガ、陸軍大臣ハ如何ニ御考ニナッテ居リマスカ、御答辯ヲ御願ヒ致シマス

○宇垣國務大臣 御答致シマス、競馬收入ヲ全部馬事ノ振興ニ用ヒルコトハ、馬ノ方面ダケカラ考ヘレバ洵ニ結構ナコトデ、是非サウアリタイト申サナケレバナラスノデアリマス、併ナガラ社會施設ノ改善ヲシテ、國民思想ヲ穩健ニ導イテ行クコトモ、國防ノ上カラ考ヘルト、非常ニ大事ナコトデアリマス、其何レガ重イ、何レガ輕イト云フコトハ、殆ド天秤ニ掛ケテ測定シ難イ問題デアルト私共ハ考ヘテ居リマス、ソコデ競馬ニ依ッテ得タル財源ノ一部ヲ、社會施設ノ方ニ用ヒルト云フコトモ亦洵ニ結構ナコトデアリマス、ソレデ私ハ此度ノ提案ニ同意ヲ致シタ

ト云フヤウナ場合ニ當リマシテ、陸軍他ヘ轉用サレルト云フコトニナレバ、一面ニ於テ國防上大切ナ馬ト云フモノガ、非常ニ苦シイ立場ニ陥ル虞ガアリマスカラ、ソコニ相當ノ比率ヲ設ケテ、將來ニ於テ、所謂議院ノ協賛ヲ經ザル限リハ、政府當局ガ之ヲ勝手ニ動かスコトノ出來ナイコトニ制限ヲ設ケテ置ク必要ガアル、サウシテ其決定シタ比率モ、大體ニ於テ適當ナ比率デアル、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○藤井委員 陸軍大臣ノ御説明ヲ承ルト、總理大臣トシテノ御説明ノヤウニ吾々ハ拜聽スルノデアリマス、何故カト申スト、社會事業ガ國防上ニ如何ナル關係ガアルカハ存ジマセスケレドモ、先般私ガ本會議デ質問ヲシタ際ニ於キマシテ、次ノヤウナ答辯ガアリマシタ、收入ノ全部ヲ馬ノ方ニ向ケ得ルト云フコトナラバ、是ハ多々益々辨ズデ、望ム所デアリマス、併ナガラ國防ハ申スマデモナク馬事ダケデアリマセ

ス、即チ社會ノ施設ヲ改善シテ之ニ依ッテ國民思想ヲ穩健ニ導イテ行クト云フヤウナ御説明ニナッテ居リマスガ、是ハ軍事當局カラ承ルコトヂヤナイト私ハ考ヘテ居リマス、言フマデモナク、社會事業ガ間接ニハ國防デアアルコトモ吾ハ承知シテ居リマス、社會事業モ亦國防デアアルコトハ言フマデモアリマセ

ス、吾々ガ今ヤッテ居ルコトモ、悉ク國防デアリマセウ、新聞記者諸君ガ專心木鐸トシテ、社會ノ耳目トナッテ御働キニナルコトモ國防デアリマセウ、サウ云フコトヲ以テ言ッタナラバ、一舉一動皆國防デアルト言ハナケレバナラスノデアリマス、ソレハ程度ノ問題デアル、ソレヲ大キク御話ニナリマシテ、ヤア社會事業ハ國防ノ一ツノ要素デアルト云フヤウナコトハ、軍事當局カラ聽クベキ言葉デハナイト私ハ考ヘルノデア

ル、言フマデモナク國家ノ事業ハ、社會事業デモ、生産事業デモ悉ク國防ト云フコトニナリマセウ、ケレドモ本法ノ成立致シマシタ直接ノ目的ト云フモノハ、産業ノ開發ニアルコトハ言フ迄モナイコトデアリマシテ、他面ニ於テハ主トシテ一旦事アル際ニ、若モ我陸軍ガ干戈ヲ交ヘテ、他國ニ破レルヤウナ事ガアルナラバ重大事デアルト考ヘレバコソ、國民ニシテモ、亦農林當局ニ致シテモ、國民ノ負擔スル租稅ヲ以テ產馬振興ノ爲ニ使ヒ、是ハ産業ノ爲デアリマスガ、一面ニ於キマシテハ、國防ト云フコトニ重キヲ置イテ、之ヲ使ヒツ、アルノデアリマスカラ、陸軍當局トシテハ、成程社會事業モ國防ノ一端デアアルコトハ言フ迄モナイコトデアリマスガ、主眼ヲ何ニ置クカト云フト、要スルニ馬事ノ振興ヲ第一ニ考ヘ

テ、其餘裕ノアツタ際ニ初メテ社會事業ニ此金ヲ使用スルコトガ、最モ適當ナコトデアルト思フデアリマス、然ラバ既ニ農林省當局並ニ陸軍省當局ガ御ヤリニナツテ居ル所ノ馬事ノ振興ト云フコトヲ、十分ニ貫徹致シマシテ、少シモ馬事上ニ於テ不足ガナイト御考ニナツテ居リマスカドウカ、承リタイト思ヒマス

○宇垣國務大臣 國民思想ノ善導ニ資

スルト云フ方面ニ、私ガ想ヲ向ケタコトニ付テ、御非難デアルカ御批評デアルカ承ツタヤウデアリマスガ、國防ノ見地カラ見マス、國民ノ最モ健全デアルト云フコトガ、馬ヨリモ何ヨリモ大切デアルト、言ヒ様ニ依ツテハ言ヒ得ル節モ存スルデアリマス、即チ人ニ依ツテ馬デモ機械デモ總テ動クデアリマス、其國民ノ思想ヲ穩健ニ著實ニ導イテ行クト云フコト、其事ガ國防ニ極メテ間接デアリ、縁ガ遠イト云フ御説ハ私ハ承服致シ兼ネルノデアリマス、是ハ最モ緊密ナル關係ヲ有シテ居ルモノト思フノデアリマス、隨テ國防當局トシテ、國民思想ノ上ニ十二分ノ考慮ヲ置キ、注意ヲ拂ッテ行クコトハ、是ハ私當然ノ責務ト今日マデ考テ居リ、又今後モ其考ハ變更ハナイノデアリマス、元國防ト言ヘバ、單ニ軍隊ヲ健全ニ仕上ゲテ行キサヘスレバ、ソレデ國防ノ任

務ヲ達シタト云フ時代モアツタノデアリマス、併ナガラ歐羅巴大戰以後ノ趨勢ハ、戰爭ト云ヘバ國家總動員デヤラナケレバ本當ノ戰ハ出來ナイ、國家總動員ト云ヘバ、藤井君ノ御説ノ通り、ア

ナタ方ノ御活動モ何モ總テノモノガ無論國防ノ或ル部分ニ、含マレテ居リマス、併シ其國防ノ要素トシテ一番大切ナモノハ人間、ソレカラ機械トカ馬ト云フコトニナツテ居ル、即チ其機械デモ

馬デモ、動カスノハ人間デアリマスカラ、此思想ノ善導ニ資スベキ方面ニ、或種ノモノヲ割クト云フコトハ、決シテ國防ノ縁ガ遠イ、或ハ間接デアルト云フヤウニハ、當局ト致シテ毛頭考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ今ノ馬事ノ改良増殖ノ關係等ガ欲スル通りニ出來テ

居ルカト云フ最後ノ御問デアリマシタガ、是ハ先日來申上ゲマシタ通り、マダ十分トハ云ヘナイ、又如何ナル點ニ缺點ガアルカト云ヘバ、其缺點モ申上

ゲ來ツテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ茲ニ競馬法ノ改正ニ依ツテ收入ノ増加ヲ圖リ、其或部分ヲ以テ更ニ種馬ヲ殖ス

トカ、或ハ牧野法ノ改正ニ依ツテ、現在ヨリ以上馬ノ關係ヲヨリ良クシヨウト努メテ居リマス、此點ガ今後ニ於テ數

ハ達シ得ルダラウト考ヘテ居リマス、又達シサセナケレバナラヌト、斯ウ云フ確信ヲ有ツテ居ルノデアリマス

○藤井委員 陸軍大臣ハ此財源ハ何カラ出來テ來ルカト云フコトヲ御忘レニナツテ居ルト考ヘルノデアリマス、吾々

ガ六十五歳以上ノ老衰者ヤ、十三歳以下ノ幼年ヤ、或ハ妊婦、產婦ニシテモ或ハ癡疾者ニシテモ、是等ノ諸君ヲ救

ハントスル考ニ致シマシテモ、陸軍大臣ヨリ國民ノ吾々ノ方ガ深イト確信シテ疑ハナイノデアアル、財源ガ出來タナ

ラバ、之ヲ一時モ早クシタイト云フコトハ言フマデモアリマセヌ、現ニ田中内閣ニ於キマシテ、此法案ヲ出シマシ

タ當時ニ於テ、反對黨デアリマシタ當時ノ野黨諸君モ、政友内閣ノ法案ヲ決

何デアリマス、競馬ト云フ一種ノ「スベキユレーション」デアリマセヌカ、世間カラハ賭博デアアル、投機デアアル、斯ウ言ハレルモノデアリマスカラ、此

金ノ使途ハ餘程注意シナケレバナラヌト吾々ハ深ク思フノデアリマス、斯ウ云フ「スベキユレーション」マデシテモ、

尙且ツ國民ガ之ヲ默認シテ居ル所以ノモノハ、直接ニ一旦事アル際ニハ軍馬ニ之ヲ使用スルモノデアアル、國防ノ爲ニ之ヲヤルノデアアル、デアリマスカ

ラ國民モ我慢シテ居レト云フノナラバ宜シイノデアリマススケレドモ、其目的ヲ變更シテ、而モ其金額ガ一千萬圓、

二千萬圓、三千萬圓ト云フヤウナ大金デアラナラバ、私ハ決シテ御獎メ致シマセヌ、救護法ニ使用スル金ハ僅ニ來年度ニ於テハ百萬圓、其翌年度ニ於テ

ハ二百萬圓ト云フ少額ノ金額デアリマス、然ルニ競馬法ノ眞ノ目的ト云フモノヲ脱出致シテ、他ノ方面ニマデ其金

係ガアルト云フヤウナコトデ、之ヲ認
メルト云フコトニナリマス、私ハ國
民思想ハ惡化スルト考ヘルノデアリマ
ス、特ニ競馬法ヲ改正シテ「スベキ
レーション」ノ率ヲ高メテ、サウシテ
多數國民ヲ「スベキレーション」ニ向
ケヨウト云フ際ニハ、國防上飽マデ是
が必要デアル、國防ヲ必要トスルナラ
バ、産業ヲ盛ニシ、軍馬ヲ特ニ盛ニシ
ナケレバナラヌノデアルカラ、馬ノ産
業及軍馬ニダケ使用スルト云フコトナ
ラバ終始一貫徹底スルノデアリマス
レドモ、他方面ニ之ヲ使用スルト云フ
際ニハ、餘程考慮ヲ拂ハナケレバナラ
ヌノデアリマス、最近ノ思想ヲ考ヘテ
御覽ナサイ、思想ガ善化スルトハ考ヘ
ラレナイ、軍隊ニ對シマスル信用、或
ハ又最近露西亞等カラ參リマスル新シ
イ思想ト云フモノハ、次第々々ニ國民
ノ中ニ恐ルベキ惡化思想ガ浸潤シツ、
アルノデアリマス、其際ニ尙國家ガ此
法案ニ依ッテ國民ヲシテ公然ト賭博ヲ
爲サセ、多數ノ者ヲ参加セシメ、其金
ヲ取來ッテ社會事業ニ使用スルカラ差
支無イ、多々益、辨ズレバ宜シイト云
フヤウナコトヲ考ヘル、ソレ自體ガ既
ニ私ハ軍隊ノ頭株連ノ頭ガ變ッテ居リ
ハセヌカト考ヘルノデアリマス、要ス
ルニ斯ウ云フ「スベキレーション」ノ
金ト云フモノハ、全ク國家國防上、一度

戰爭ニ際會シマシテ我國ガ破ラレルト
致シマシタナラバ、吾々國民ハ奴隸ニ
ナラナケレバナラヌノデアアル、ソレヲ
防グ爲ニハ國民ハ一致協力シテ此様ナ
「スベキレーション」デアレドモ
已ムヲ得ズ認メテ、サウシテ國民ノ惡
化思想ナルモノヲ出來ルダケ防ギナガ
ラ、國家擁護ノ地位ニ此陸軍ヲ立タシ
メタイト云フ氣持デヤラナケレバナラ
ヌト思フノデアリマス、然ルニ陸軍大
臣ノ御答辯ヲ聽クト、吾々ハ解セナイ、
恐ラク陸軍大臣ハ此案ニハ御賛成デア
ルマイト思ヒマス、贊成ナサルナラバ
ソレハ御考ガ間違ッテ居ルト思フ、要ハ
社會事業ト云フコトニ名ヲ藉ッテ、僅カ
ノ財源ヲ得ル爲ニ、本法ヲ改正致シ、
ソレノミナラズ本法改正當初ノ目的デ
アリマス所ノ馬事振興ノ方面或ハ産業
ノ方面ニ向ッテ其結果農村ノ疲弊困
ヲ蔑ロニ致シマシテ、救護法ニ其財源
ヲ御使ヒニナルコトハドウシテモ解セ
ナイノデアリマスガ、陸軍大臣ハ「ス
ベキレーション」ト云フヤウナコト
ガ盛ニナリマシテモ、決シテ是ハ國民
思想ヲ惡化スルモノデハナイト御考ニ
ナリマスカドウカ、其點ヲ御尋致シマ
ス

事業ニ振向ケタイト申シテモ、極メテ
少額ノ金デアッタカラ、サウ云フ餘裕ハ
當初ニ於テハナカッタノデアリマス、ソ
レガズツト年ヲ逐フテ競馬カラ產出ス
財源モ漸次殖エテ參リマシタ、殊ニ此
度ノ改正ニ於テハ、ソレガ尙ホ一層殖
エテ參ルト云フヤウナ事態ニナリマシ
タカラ、吾々ガ豫テカラ思ッテ居ル國民
思想ノ善導ノ一部ニ資スルト云フ意味
合カラ、得タル財源ノ一部ヲ割クト云
フコトハ、是ハ十二分ニ考慮ヲ致シタ
結果、ソレガ適當デアラウト思ヒマシ
テ、農林當局ノ提案ニ同意ヲ致シタヤ
ウナ次第デアリマス、又其當局ノ方面
カラ承レバ、投機ノ弊風モ今後ノ方法
ニ依レバ、或ル程度ニハ從來ヨリモ減
少シ得ラレサウナ話モ承ッテ居リマス、
其當局ノ御話ヲ信ジテ、アナタノ御考
ニナッテ居ルヤウナ弊風ガ益、助長サレ
テ、國民思想ガ一層惡化スルト云フヤ
ウニハ考ヘテ居ラスノデアリマス、左
様御承知ヲ願ヒマス

○藤井委員 實ハ私ハ競馬ニハ參ッ
コトハアリマセヌ、ソレデ能ク實狀ハ
知ッテ居リマセヌケレドモ、陸軍大臣ト
シテ農林當局ノ仰セニナルコトヲ御信
用ニナルコトガ間違デアアル、人間ニ投
機心ノ無イ者ハアリマセヌ、世界列國
ニ參リマシテ、日本位博奕心ノナイモ
ノハアリマセヌガ、外國人ハ殆ド何ニ拘
ラズ賭ケナケレバ仕事ヲ爲サイト云フ
ヤウナ國民デアリマスカラ、是等ト比
較スル譯ニハ參リマセヌケレドモ、國
家ノ收入ヲ殖ヤサウト云フ際ニ當ッテ、
政府當局ガ取リマスル此改正案ニ依ッ
テ、賭博心ガ増長シナイト御考ニナル
ナラバ、根本カラ間違デアルト私ハ思
フノデアリマス、是ハ或ハ意見ノ相違
デアルト御主張ニナルデアリマセウケ
レドモ、人間ガ殖エ、賭博ニ參ル者ガ
殖エ、競馬ヲスル者ガ殖エ、金額ガ上
ルト云フ御考デアレバ、必ズ射倖心ガ
増長スルノハ決ッテ居ル、此點ダケハ私
ハ陸軍大臣ノ御説明ヲ納得スルコトハ
出來マセヌケレドモ、是ハ意見ノ相違
デアリマスカラ此程度デ止メマス、要
スルニ只今ノ御説明ニ依ッテハ、馬事振
興ガ十分徹底シテ、最早少シモ心配ガ
ナイ、國防上ニ不安ガナイト云フコト
ノ御辯明ニハナラナイト思フノデアリ
マス、唯、是カラ此改正ニ依ッテ得タル
金ヲ馬事振興ノ方ニ使ッテ、段々所期ノ
目的ヲ達スルノダト御説明ニナルノナ
ラバ宜シイノデアリマスガ、先程ノ陸
軍當局カラノ御説明ノ中ニモアリマシ
タ如ク、農林當局ノ發表ト、陸軍當局
ノ發表ヲ比較致シマシテモ、約十萬頭
ノ差ガアルヤウニ拜聽シタノデアリ
マス、或ハ其理由ハ様々アリマセウケ
レドモ、吾々ハ何レヲ信ズルカト云ヘ

バ、言フ迄モナク農林當局ノ發表スル
モノヨリハ陸軍當局ノ責任ヲ以テ發表
ニナル事ヲ確ク信ズルノデアリマス、
又吾々國民ト致シマシテモ、ソレヲ信
ズルコトガ當然ナノデアリマス、其信
用ハ他ノ省ガ發表シマスヨリモ、確實
ナルモノデアルト吾々ハ敬意ヲ表シテ
居ルノデアリマス、其敬意ヲ表シテ居
リマスル點カラ見マシテモ、農林省發
表ノ百三十五萬頭内外、即チ之ヲ百四
十萬頭——致シマシテモ、陸軍當局ガ
御考ニナツテ居ル所ノ百五十萬頭ヨリ、
十萬頭程違ッテ居ルノデアリマス、先程
川島代議士カラ御質問ガアッタ如ク、此
競馬法ガ實施サレテ以來ノ馬ノ頭數ノ
増加ヲ見マスト、年々減ッテ參ルノデア
リマス、一旦國交破レマシテ、干戈ヲ
他國ト交ヘルヤウニナッタ際ニ、本會議
ニ於キマスル御辯明ニ依リマシテモ、
或ハ五十六議會ニ於キマスル政府當局
ノ御辯明ニ依リマシテモ、戰爭ノ始マ
タ當初ニ於テハ、陸軍當局トシテハ此
程度デ間ニ合フケレドモ、歐洲戰爭ノ
如ク長期ニ互ル際ニハ、何トモ致シ方
ガナイト云フコトガ、陸軍當局ノ大體
ノ御辯明ニナツテ居リマスルガ、左様理
解シテ差支ゴザイマセスカ

○宇垣國務大臣 此競馬法實施ノ結
果、將來ニ於テ益、投機心ガ盛ニナルカ
否ヤト云フコトハ、是ハ藤井君カラモ
意見ノ相違ダト云フ御話ガアリマシタ
カラ、強ヒテ私ノ考ハ申述ベマセヌガ、
今日總テノ仕事ガ分業ニナツテ來テ居
リ、所謂餅屋ハ餅屋、今日職業ヲ持ッテ
居ラレル農林當局ノ説明ヲ、軍務當局ト
分ノ信用ヲ拂ッテ同意ヲ致シテ居ル譯
デアリマス、ソレカラ馬ノ頭數ニ付テ、
農林當局ノ發表ト、陸軍當局ガ發表致
シタモノトノ間ニ、若干ノ差ガアルコ
トヲ御指摘ニナツテ居ラレタヤウデア
リマスガ、是ハ先ニモ説明員ガ申上ゲ
マシタ通り、農林當局ノハ全國ノ總テ
ノ馬、而モ離島ニアルモノマデモ計算
ニ入レテ居リマス、陸軍ノハ、或ハ戰
時動員ノ時ニ取上ゲルコトノ出來ナイ
島トカ、或ハ宮内省關係ノモノトカ、
サウ云フモノヲ皆省イテ居リマス、是
等モ總テ通算シテ行ッテ見マシタナラ
バ、餘程相接近シタモノニナリハシナ
イカト考ヘテ居リマス、併シ其處ニ若
干ノ開キガアルト云フコトハ、是ハ確
デアリマス、即チ馬籍法ガ施行サレテ
モ、御承知ノ通り今日ソレガ正確ニ運
用ガ付イテ居ラヌト云フ關係ガアリマ
ス、ドウモ一ツノ馬ガ二度モ三度モ顔
ヲ出スト云フ場合モアリ、或ハ出ベキ
馬ガ顔ヲ出サヌヤウナコトモアッテ、ソ
コ等ニ、人口調査ノ如ク正確ニ參ッテ居
ラヌ點ガアルヤウニ思ヒマス、是ハ洵
ニ遺憾ニ考ヘテ居リマスカラ、將來益、
調査ヲ精密ニシテ、所謂國トシテ、確
定數ヲ舉ゲルベク努メル積リデアリマ
ス、ソレカラ最後ノ御問ハ何デゴザイ
マシタカ、一寸失禮デゴザイマスガ：

○藤井委員 只今ノ御答辯ヲ承リマス
ルト、百五十萬頭ヲ維持シヨウト云フ
考デアルケレドモ、陸軍省トシテハ之
ニハ不足分ガアル、或ハ十萬頭十五萬
頭、ソレハ何處ニアルカト云フト、島
嶼ニアルトカ、或ハ宮内省關係デア
ルトカ、中々ソレヲ統計ニ取ルノハ困難
デアル、斯ウ云フ御説明ヲ承ッタノデア
ル、ソレデカラ私ハ御尋ネセネバナラ
ヌノデアリマス、サウ云フモノハ、一
旦國交ガ破レタ際ニ、ドウシヨウト思
テモ、仕様ノナイモノト吾々ハ考ヘマ
スガ、大體サウデゴザイマセウカ

○宇垣國務大臣 先ノ御問モ今考ヘ付
キマシタ、現在ノ馬ノ數デ満足シ得ル
カドウカト云フヤウナ御意味ト思ッ
タデアリマスガ、先程來申述ベマシタ
通り、百五十萬頭ノ維持ト云フコトニ、
又其素質ノ向上ト云フコトニ、内ニ於
テハ努力ヲ致シ、又外ニ於テハ新領土
若ハ新領土ニ接近シテ居ル地方ノ馬ノ
利用ト云フコトニ付テモ、相當ニ研究
ヲ進メテ居リマシテ、國防ノ上ニ於キ
マシテ、遺憾ナキヲ期スベク努メテ居
ル次第デアリマス

○藤井委員 マダ吾々ハ農林當局カラ
モ、或ハ大藏當局カラモ少シモ承ッテ居
ラヌノデアリマスカラ、農林省ノ馬産
獎勵、改良、増殖等ニ關シマスル今後
ノ對策ニ付テモ判リマセヌ、又大藏大
臣ガ之ニ對シマスル御考モ承ッテ居ラ
ヌノデアリマス、ケレドモ陸軍大臣ノ
御説明ヲ色々推測シテ見マスト云フ
ト、百五十萬頭ト云フモノハ必ズシモ
必要デハナイノダ、之ニ改良ヲ加エ、
或ハ馬匹ノ改良ヲシテ行キサヘスルナ
ラバ、大體百四十萬頭若クハ三十萬頭
デモ宜シインダ、ト云フヤウニモ見エ
マスガサウデヤゴザイマセヌカ、是非
トモ陸軍當局トシテハ百五十萬頭ト云
フモノヲ最小限度ノ目指トシテ御ヤリ
ニナル御考デアリマスカ、ソレトモ現
在陸軍當局ガ御考ヘニナツテ居リマス
ル、或ハ御調査ニナツテ居ル所ノ百三十
四五萬頭カラ四十萬頭内外ノ馬匹ノ改
良ヲシサヘスレバ満足デアルト御考ニ
ナツテ居ラレルノデアリマスカ、ハッキ
リシテ居リマセヌカラ其點ヲ御説明ヲ
願ヒマス

○宇垣國務大臣 馬ノ素質ガ良クナッ
テ來レバ、若干ハ減ラセルカモ知レヌ、
若干ハ減ラセルカモ知ラヌガ、假令戰
時ニナツテモ、馬ヲ悉ク軍用ニ供スルト
云フ譯ニハ參リマセヌ、御承知ノ通り

農業其他輸送等ニ、國內ニ於テモ、或ハ平時ヨリヨリ以上ニ馬ヲ要スル事柄ガ殖エテ來ルカモ知レヌ、隨ッテ馬ノ素質ガ今後ヨリ良クナレバ、若干ノ餘裕ハ其處ニ生ズルカモ知レマセヌケレドモ、早晚之ヲ減少シ得ルハ、現在ニ於テハ考ヘテ居リマセヌ、今後機械動力ガ今日ヨリ、ヨリ以上ニ發展ヲ致シテ、サウシテ戰時ニ於テ、國內ノ民業其他輸送等ノ方面ニ機械ガ働キ得ルト云フコトニナレバ、其時期ガ到來シタナラバ、餘程變化ガ起ッテ來ルカモ知レマセヌガ、現在ニ於テハ、ドウシテモ百五十萬頭ノ、此數ノ維持ト云フコトヲ標準ニシテ進マナケレバナラス、斯ウ確信ヲシテ居ル次第デアリマス

○藤井委員

本會議デ川島君ノ御質問ニ對シテ、陸軍大臣ノ御答辯ガアッタノデアリマスルガ、馬ノ數ガ機械動力ノ發達ニ伴ヒマシテ減ジヤウト云フヤウナ趣向ニアリマスカラ云々斯ウ云フ御説明デアリマス、是ハ洵ニ當ヲ得タ御説明ト思フノデアリマス、國內産業トシテハ吾々カラ考ヘマシテモ、次第第二馬ノ使用ト云フモノガ減ッテ行クダラウト云フコトヲ非常ニ心配シテ居ルノデアリマス、ダカラ此點ニ付テハ、モウ救護法デアルトカ、社會事業デアルト云フヤウナ烏計ガマシイヤウ

セヌケレドモ、陸軍當局トシテハ、一旦爭ヒガアッタ際ニハ、ヤハリ百五十萬頭ト云フモノヲ維持シ、而シテ此軍馬ヲ以テ戰ヲ致サナケレバナラスト云フ御考デアリマセウガ、今後減ッタ際ニハ、ソレデモ何モ差支ナイト御考ニナリマスカ、此點ヲ言明願ヒタイト思フノデアリマス

○宇垣國務大臣

先刻來度々申上ゲテ居リマス通り、百五十萬頭ノ維持ト云フコトガ必要デアリマス、即チソレヲ換言スレバ、減ルコトハ困ルト云フコトニ歸納シ得ルノデアリマス

○川島委員

一寸關聯シテ伺ヒマスカ、私ガ今日冒頭ニ御聞キシタ所ニ依リ、又今藤井君ト陸軍大臣トノ質問應答ニ依ッテ、色々考ヘテ見マス云フト結局陸軍御當局ハ、百五十萬頭維持ハ必要デアアル、併ナガラ馬ノ數ガ漸減シテ居ル、此狀態ハ國防上ヨリ見テ甚ダ憂フベキモノダト云フコトハ分ッタノデアリマス、一面ニ於テ現在ノ馬ノ品質ハ不十分デアルカラシテ、改良シナケレバナラスト陸軍御當局ガ御考ニナッテ居ルコトモ分ッタノデアリマスガ、陸軍大臣ノ先程ノ御説明ニ依ルト、今回ノ競馬法ノ改正ニ依ッテハ、馬ノ頭數ヲ殖ヤスコトハ、直接ニハ出來ナイ、唯競馬法カラ產出シタ所ノ金ヲ以テ馬種ノ改良其他ニ使用ヲシテ、之ニ依ッテ

馬ノ頭數ヲ殖ヤス、又百五十萬頭維持ノ目的ヲ達スルノダ、此御説明ハ一應諒承シマシタ、然ラバ片方ノ質ノ問題ハドウカト云フト、陸軍政府委員ノ御説明ニ依ルト、競馬法ノ施行規則ヲ直シテ、成ベク障害競爭、速歩競爭ヲ殖ヤシテ——理想トシテハ障害競爭、速歩競爭ヲ全競爭ノ半分ダケハヤラシテ、陸軍ノ要求スル馬ノ質ノ改良ニ裨益セシムルノダ、斯ウ云フ御説明デアッタ、シテ見マス、此競馬法ノ改正ニ依ッテ、直接——今回ノ改正ハ馬券ヲ二枚賣ラセルコト、日數ヲ二日殖ヤスコトデアリマスガ、此改正ニ依ッテ、直接ニハ馬ノ頭數ヲ殖ヤスコトニモ、亦陸軍ガ要求スル所ノ軍馬實用馬ノ品質ノ改良ニモナラス、之ヲヤルノハ競馬法ノ改正カラ產出シタ金ヲ有益ニ使用スルノガ目的デアアル、モウ一ツハ競馬法ノ施行規則ヲ直スコトニ依ッテ、此目的ヲ達スルノダ、斯様ニ結論ガ相成ルヤウニ考ヘタノデアルケレドモ、左様ニ考ヘテ宜シ文デザイマスカ、陸軍大臣ノ御説明ヲ願ヒタイ

○宇垣國務大臣

御說ノ通り馬券ヲ二枚賣ッタカラ、直グ馬ノ數ガ殖エルトカ何トカ云フ直接ノ問題デハナク、御述ニナリマシタ通り、間接ニ收入ガ殖エタルカラ、其收入ニ依ッテ馬事思想モ振興サセレバ、種馬ノ改善充實モ圖ル、又

牧野法ノ施設モヤル、舉ゲ來レバサウ云フコトハ幾多アリマセウ、サウ云フコトニ依ッテ、自然ニ馬ノ數モ減リ掛ケテ居ルモノヲ喰止メ、喰止メテ更ニ百五十萬頭維持ヲ可能ニスル、又百五十萬頭ノ馬ノ品質モ良クナラウ、斯ウ云フ期待ヲ待ッテ居ルノデアリマス

○川島委員 サウシマス、言ヒ換ヘマスレバ競馬カラ出ル直接ノ效果トシテハ、何等馬ノ頭數ヲ殖ヤスコトモ、馬ノ品質ノ改良ニモ益スルコトハナイケレドモ、此競馬法ニ依ッテ產出ス金ニ依ッテ、馬ノ頭數モ殖ヤシ、又品質ノ改良モスルノダ、斯ウ云フ御説明デアリマシタヤウニ私ハ承リマシタ、此點ヲハッキリ伺ッテ置キタイ

○宇垣國務大臣 競馬直接ニ依テ何等ノ效果ヲ齎サヌカト、斯ウ申セバ、ソレハ左様ニハッキリシタ性質ノモノデハアルマイト思ヒマス、競馬ニ從事スル馬其モノ、資質ガ、自然ニ良クナッテ參レバ、隨テソレガ他ニモ使ハレルトカ何トカ云フヤウナ譯デ、競馬其モノカラモ直接ニ若干ノ效果ハ舉ッテ來ルダラウト考ヘテ居リマス

○川島委員 陸軍ガ今御持チニナッテ居ルノハ、乘馬馬ガ二萬頭、輓馬駄馬ト合セテ一萬五千頭、其他一萬頭バカリアル、乘馬馬ハ僅ニ二萬頭シカナイ譯デアリマスガ、競馬ニ依テ品質ノ改

良ヲサレルノハ、主トシテ乘馬馬ニ限ル、而モ主トシテ競馬ニハ「サラブレッド」ガ出ル、極ク神經質ノ馬ノミガ競馬ニ出ルト云フ譯デアアルガ、此點ニ付テ先程小磯政府委員ハ、成ベク施行規則ヲ直シテ、障礙競爭、速步競爭ヲヤラシメ、品質ノ改良ヲスルノダト言ハレタガ、此小磯政府委員ノ御説明ニ依テモ、尙ホ輓馬、駄馬ノ改良ハ出來ナイ譯デアリマス、假ニ施行規則ヲ直シテモ、僅ニ乘馬馬ノ品質ヲ改良スルダケデアッテ、實ハ此競馬ニ依テハ馬ノ品質ノ改良ニ大シテ影響ガナイト云フヤウニ考ヘテ居リマスガ、此點ハ如何デアリマセウ

○宇垣國務大臣 政府委員カラ説明致サセマス

○小磯政府委員 競馬法施行規則ノ改正ニ依テモ、ヤハリ乘馬種ノ改良シカ出來ナイデヤナイカト云フヤウナ御意見ノヤウデアリマシタガ、其點ハ少シ所見ヲ異ニシテ居リマス、競馬法施行規則ノ改正ニ依リマシテ改良セラルベキ事柄ハ多クアルダラウト思ヒマス、障礙、速步競爭ヲヤリマス外ニ、馬ノ負擔量ヲ相當増加スルト云フヤウナ事柄モ必然條件ニナッテ來ルモノト考ヘマス、是等ニ依リマシテ、單ニ乘馬バカリデナク、中間種ノ輕輓馬等ハ當然改良ニ向ヒ得ルモノト考ヘテ居リマ

ス、駄馬ト云フ問題ニナリマス、大シタ影響ハ無イカモ知レマセヌガ、多少間接的ノ改良ト云フモノガアルノデハナイカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○川島委員 結局施行規則ヲ改正スレバ、陸軍當局ノ考ヘテ居ルヤウナ改良ハ出來ルノデアアル、何モ馬券ヲ二枚賣ラシメ、賭博ノ助長獎勵ヲシテ、風教上、思想上害ノアルコトヲシナクテモ、施行規則サヘ變ヘレバ、陸軍當局ガ考ヘテ居ル品質ノ改良モ出來、又一方ニ金サヘアレバ陸軍大臣ノ考ヘテ居ルヤウナ百五十萬頭維持モ出來ルノデアアル、此際風教上思想上非常ニ害ガアルト云フヤウナ競馬法ノ改正ヲスルト云フ必要ハ私ノ想像スル所デハ陸軍ハ要求シテ居ナイノデヤナイカト思フ、其他ノ風教上思想上、少シモ害ノ無イコトニ依テ、幾ラモ陸軍ガ考ヘテ居ルヤウナ馬ノ増殖並ニ改良ノ方法ガアルノデアアルカラ、陸軍大臣ガ何故ニ風教上、思想上害ノアル法案ニ御贊成ナサツタカト云フ、其眞意ガ分ラナイ、國庫カラ金ヲ出シテ馬事振興ニ使ヘバ宜イ、又施行規則ヲ直セバソレデモ宜イ、此點ニ付テ私ハ陸軍大臣ハ何デコンナ愚劣ナ社會ニ害ノアル法案ニ御贊成ナサツタカ、是ハ答辯ヲ求メマセヌケレドモ、其御趣意ガ分ラナイ、先程藤井君ヨリ御話ノ通り、陸軍當局ハ、

心カラ御贊成デハナカラウト思ヒマス、唯救護法ヲ施行シナケレバナラスト云フ、政府ノ政策ニ引摺ラレテ、厭ヤ厭ヤナガラ競馬法ノ改正ニ御贊成ニナツタノデハナイカト云フ結論ニ到達シタノデアリマス、尙ホ私ハ陸軍大臣ニ對スル質問ハ澤山アリマスガ大臣ノ御都合ハ如何デアリマスカ

○高橋(熊)委員 吾々モ陸軍大臣ニ對シテハ、重要ナル質問ガ澤山殘ッテ居ルノデアリマス、先程私ガ質問ヲ中止シタノハ、外ノ人ノ關聯質問ガアツカラデ、大體ノ質問ダケニ止メタノデアリマス、私共ハ事實馬事ガ振興ドコロカ、非常ニ退步シカケテ居ルト思ッテ居リマス、殊ニ農家ト云フカ、產馬家ト云フカ、斯様ナ人達ハ非常ナル犧牲ヲ拂ッテ居ルノデアッテ、今ヤ其犧牲ニ堪ヘ得ラレスト云フヤウナ狀況ニナッテ居ルノデアリマス、之ヲドウスルカハ重大ナル問題デアリマシテ、是等馬政上ノ將來ノ計畫ニ對シテ、是非共陸軍大臣ノ責任アル答辯ヲ承ラナケレバナラヌノデアリマスカラ、陸軍大臣ハ本委員會ノ爲ニ時間ヲ割愛シテ戴キタイト思ヒマス

○中馬委員長 今日ハ本會議ガアリマスガ、三時頃マデ引續イテヤリタイト思ヒマスノデ、一時休憩ヲシマシテ午後一時ヨリ開會致シマス

後一時ヨリ開會致シマス

午後零時二十五分休憩

午後一時二十分開議

○中馬委員長 ソレデハ只今ヨリ開會致シマス、午前ニ引續キマシテ質問ヲ許シマス

○難波委員 色々政府當局ト、委員間ノ質問應答ヲ聞キマシタガ、今回ノ改正法案ニ於キマシテ、勝馬ノ投票ハ一票ガ原則ニナツテ居ッタカ、單勝式ト複勝式ヲ併用ナサルト云フノデアリマシマスガ、モウ少シ一步御進メニナツテ、一般ノ俱樂部ノ希望デアリマシ、又政府ノ納付金ヲ増加スル意味ニモナルノデアリマシカラ、條件ト云フモノヲ撤廢シテ、サウシテ自由ニ買ヘルト云フ程度マデ、御進メニナツテハ如何デスカ、ト云フノハ丁度此法案ガ出來タ當時ト今日トハ、大分人智モ進ンデ居リマス、經濟思想ガ非常ニ發達シテ居ルノデアリマシカラ、斯ウ云フヤウナ所謂思惑トカ云フヤウナモノハ、最低ノ單位ヲ決メルケレドモ、上ノ單位ヲ決メナイト云フノガ面白イノデアリマス、又總テノ思惑ト云フモノハ、最低單位ハ面倒デアルカラ決メルケレドモ、ソレヨリ以上ハ自己ノ所謂財產其他情勢ニ依ツテ思惑スル、或ハ斯ウ云フモノヲ買フト云フコトニナルノデアリマシカラ、サウナサッタ方が、政府ノ所謂今日

此法案ヲ改正ナサル根本ノ趣旨ニ副フト思ヒマスガ、御意見ハ如何デスカ

○町田國務大臣 甚ダ相濟ミマセスガ、私ハ此提案ヲ致シマスニ付キマシテハ、大體ノコトハ承知ヲ致シマシテ、無論責任ヲ執ツテ居ルノデアリマシマスガ、甚ダ此競馬ノ實際ノ事ニ疎イノデアリマス、只今ノ御話ノコトモ考慮致シマシタ、唯歴史カラ申シマス、初メ無制限ニヤツテ風教ニ害ガアルトカ、產ヲ破ル者ガ多イト云フヤウナ意味カラ、一時之ヲ禁止シタ、ソレガ爲ニ馬事思想ノ普及及其他馬事ノ進歩發達ヲ妨ゲテ、ヤハリ先年競馬法ガ改正サレテ行キマシテ、數年前ニ又一部改正シタ一番初メニハ何ダカ義ニ懲リテ膺ヲ吹イタヤウナ、絶對禁止シタ時代ガアリマシタガ、ソレガ緩和サレテ出來マシタソコデ三年前ニ又多少ノ修正ヲサレテ、今日ニ至ツテ居ルノデアリマシマスガ、其點ハ相當考慮シマシテ、外國ノ實例ナドニ依リマシテモ、制限ナクヤルコトガ、大體ノ仕組デアリマシマスガ、我國ニ於テハ一時競馬法ヲ廢止シ、競馬ノ賭事ヲ禁ジテシマフマデヤッタモノガ緩和サレテ、此度ハ第二回ノ改正ヲシタノデアリマス、私ハ理想トシマシテハ、將來西洋ノ或國ニ行ハレテ居ルヤウナ按配ニ、金持ガ分ニ應ジテ五枚デモ十枚デモ買ツテ、當ラナケレバ是ハ

社會奉仕ニ使フ金ダト云フ意味ニ參ル時代ガ來マシタナラバ、制限ヲ解ク時ガアラウト思ヒマスガ、今日ハ風教論

モ盛デアリマシマス、此貴族院ニ於テ其點ガ痛切ニ論議セラレテ馬種ノ數ヲ増スト云フコトマデモ、反對シテ居ラレタノデアリマス、御話ノ如ク此弊害ガ一面ニ於テハ減ツテ來ルヤウナ傾ガアルト同時ニ、吞屋ノヤリ方ガ一年毎ニ惡辣ニナツテ、一面ハ之ヲ嚴重ニ取締ル方針ニ依ツテ、此收入ヲ増スノデアリマス、或ハ二十圓デ一枚買フト云フノヲ、御話ノ通り下ノ方ニ何カ緩ミヲ付ケテ或ハ五圓位ノモノデ行ク方がドウカ、之ヲ四枚合シテ二十圓ニスルト云フヤウナ御考ノ方モアルヤウデアリマシマスガ、其點モ政府トシテハ相當考慮致シテ見マシタガ、相成ルベクハ先ヅ此原案ニ依ツテ一週實施シマシテ、其成績ニ依ツテハ更ニ考ヘルト云フヤウナコトデ、大體ニ於テハ此原案デ御諒解ヲ得タイト努メテ居ル次第デアリマス

或ハ此統制ト云フコトニ非常ニ御熱心ナシテアリマシマスガ、此地方競馬ヲシテヤハリ法律ノ下ニ、將來統制サレルト云フ御考ハアリマセヌデセウカ

○町田國務大臣 地方競馬ノコトニ付キマシテモ、相當研究致シマシタガ、アレハ命令ニ依ツテ大體ガ行ケルコトニナツテ居リマスガ故ニ、此法律ト切リ離シテ或ハ此法案ガ通過ノ後ニ、更ニ地方競馬ノ改良發達ニ付キマシテモ、相當ノ調査ヲ進メル筈デアリマス、併シ現ニ法律デナク、命令デ出テ居リマシカラ、今後地方競馬ノ改良等ニ付キマシテハ、同ジク命令デ行ツテ宜カラウ、併シ出來ルダケハ、専門家其他ノ御意見モアリマシカラ、ソレニ重キヲ置イテ、其御意見ヲ斟酌シテ、必要ノ條項ニ向ツテハ命令ニ依ツテ、改正スルコトガアルト、斯様ニ考ヘテ居リマス

○難波委員 サウスルト法律ニ之ヲ入レテ統制ヲナサラストスレバ、現在ノ儘ノ省令デヤラル、御積リデセウガ、更ニ竿頭一步ヲ進メテ勅令ヲ以テ之ヲオヤリニナルト云フ御意思ガアリマシカ、之ヲ承リマス

○町田國務大臣 形ハ勅令ト致シテモ省令ト致シテモ、別ニ地方競馬ノコトハ勅令ニ依ラザレバ、他ノ省令デハ規定サレスト云フコトモナイト思ヒマス

ガ、重大ナル命令トシテハ、勅令ニ依
ルコトモ出來マセウ、併シ其點ハマダ
深ク考慮致シテ居リマセヌ、場合ニ依
レバ勅令デモ宜シイシ、或ハ又省令デ
モ宜カラウト思ヒマス、其改正ノ内容
ハ、今後調査スルノデアリマスカラ、
其場合ノ改正ノ重大サニ依ッテ、或ハ勅
令ト致スコトモ宜カラウト思ヒマス

○難波委員 先程ノ御答辯ニ依ルト、
地方競馬ノコトニ付キマシテモ、相當

考慮スルト云フ御話デアリマスガ、サ
ウ致シマス、現在ヤッテ居ル所ノ賞品
券トシテ、地方競馬ハ一人一圓ト云フ
コトニナッテ居リマスガ、是ハ餘リ額ガ、
少クテ、所謂興味ガ少ナイ爲ニ、獎勵ノ
趣意ニモ相反スルヤウニ考ヘマスガ、
將來之ハ三圓位ニスルカ、或ハ公認競
馬ノ最下等ノ五圓見當ニマデ向上セラ
ル、御考ガアリマスガ、之ヲ承リタ
イ

○町田國務大臣 實際ノ競馬ニ關スル

陳情ノ主ナルモノハ、地方競馬ニ對シ
テモ、或程度ノ馬券ヲ出スコトヲ許シ
テ、地方ニ於ケル馬事思想ノ普及ヲ圖
レト云フ陳情デアリマシテ、此陳情ハ
相當多イノデアリマス、ソレデ之ニ馬
券ヲ發行シテ、問題ガ富籤類似トナリ、
刑法上ノ問題ト相成ルヤウナ性質デア
リマスレバ、當然是ハ法律ニ依ラナケ
レバイケマセヌガ、所謂富籤類似ノ馬

券ニ依ラズシテ、景品券ヲ與ヘルト云
フ範圍内ニ於テ、何等カ地方競馬ノ隆
盛ヲ圖ルコトヲ希望セラル、方々ノ意
見ニ、何カ調和點ヲ得ルコトガ出來マ
イカト云フコトヲ考ヘテ居リマス

○難波委員 今度ノ公認競馬ノ改正案

ニ依リマス、一人ガ單勝式複勝式ノ
二枚ニ限ラレルコトニ相成ルノデアリ
マスガ、地方競馬ニモ之ヲ及ボサレル
考ガアリマスガ

○町田國務大臣 先刻申シマシタ通

リ、一種ノ富籤類似ノ事ト相成リマス
レバ、法律ニ依ラナケレバナリマセヌ、
若シ景品券ト云フ範圍内デ適當ニ考ヘ
テ見ルコトガ出來マスレバ、省令デ出
來ルノデアリマス、是ハ單勝式、複勝
式ト云フコトヲ景品券ヲ授與スルト云
フ範圍内デ參ルカ參ラナイカハ、實ハ
私トシテハ、攻究シテ居リマセヌカラ、
畜產局長カラ答辯致サセマス

○戸田政府委員 地方競馬法改正ノ調

査ヲスル機會ニ於キマシテハ、只今御
尋ノヤウナ點ニ付テ攻究致シタイト
思ッテ居リマス、只今ドウ云フ具體案ヲ
有ッテ居ルカト云フコトニ付テハ、言明
致シ兼ねマスガ、同時ニ攻究サレベキ
問題ノ一ツト考ヘテ居リマス

○西村委員 只今御話ノ地方競馬ノ規

定ヲ、法律デ出スカ勅令デ出スカト云
フ御話ガアリマシタガ、實ハ地方競馬
ト云フモノハ、馬種ノ改良ナドヲ目的
ト致シテ居リマシテ、ソレハ良イコト
デアルガ、同時ニ射倖心ヲ挑發スルト
云フ上カラ、餘程慎重ニ考ヘテ、法律
ヲ嚴正ニ實行シナケレバナラヌト私共
ハ考ヘマス、然ルニ地方競馬ガ往々輕
卒ニ認可セラレ、ソレガ爲ニ弊害ノ續
出スルコトガ多イノデアリマス、之ニ
對シテハ、早ク法律ヲ施行シテ、嚴正
ニ取扱ハレルコトヲ望ンデ居リマス、
其法律ヲ定ムルコトガ、若シ遲レルト
スレバ、或ハ之ニ關聯シテ勅令ヲ以テ
出サレルコトガ遲レルトスレバ、其違
反行爲ニ對シテハ、最も早ク處置サレ
ル御考ハアリマセヌカ伺ヒマス

○戸田政府委員 地方競馬ノ實際ニ方

テハ、御尋ノヤウナ遺憾ナ點ガ相當ア
リマスノデ、從來カラノ方針ト致シマ
シテモ、一方ニ於テハ整理ヲスル方針
ニ進ミ、ソコデ其省令ヲ制定スルコト
ニナリマシタ以前カラアルモノヲ、省
令ニ依ッテ一時ニ廢止致シマスコトハ、
多少既得權ニ付テノ考慮スベキ點ガア
リマスノデ、一定ノ猶豫期間ヲ置キタ
イト思ヒマス、ソレハ大體ニ於テ昨年
ノ六月末日ト云フコトニナッテ居リマ
ス、各地方ニ於ケル地方競馬ノ數ノ整
理ヲ始メマシテ、ソレカラ内容改善ニ
向ッテ漸次歩ヲ進メテ行ク積リデアリ
マス、之ヲ法律ニスルカ否カト云フ點

ニ付キマシテハ、先程大臣ノ御話ニナ
リマシタヤウニ、法律ニスルコトハ目
下ノ所デハ考ヘテ居リマセヌ、一方ニ
於テ地方競馬ガ馬種ノ改良ノ目的ニ副
フヤウニ、地方競馬ノ改善ヲ圖リタイ
ト云フ精神ハ、常ニ有ッテ居ル次第デ
アリマス、改正等ニ付キマシテモ、サ
ウ云フ點ヲ大イニ考慮シナケレバナラ
ヌト思ヒマス、假ニ法律ニスルト云フ
ヤウナ時代ガ來ルト假定致シマシテモ、
其時代ニ地方競馬ガ整然タルモノニナ
ラザル曉ニ於キマシテハ、容易ニ法律
デ地方競馬法トカ或ハ競馬法中ニ地方
競馬ヲ規定スル時代ガ、來ナイモノト
推察出來ルノデアリマシテ、一般ノ情
勢カラ申シマシテ、地方競馬ガモウ少
シ整然タルモノニナルコトガ、前提ニ
ナルコト、考ヘマス

○西村委員 地方競馬ニ對シテ其數ヲ

減ジ、或ハ其内容ヲ改善スルト云フ趣
旨ハ大凡分リマシタ、然ル所此地方競
馬ニ於キマシテ、全然規則ニ違反シテ
居ルモノガアルノデアリマス、之ヲ具
體的ニ申シマス、京都府ノ如キハ一
市十八郡アルニ拘ラズ、其中ノ七郡ガ
漸ク公認サレテ居ッテ、聯合會ガ競馬ノ
認可ヲ得テ居ルノデアリマス、然ル所
七郡ト申シマス、地域ニ於テ約五分
ノ一デアリマス、其畜產聯合組合ナル
モノハ、實ハ牛ノ組合デアッテ、昨年競

馬ヲ行ッタ際ノ如キハ、三箇月以上ノ馬籍ヲ有スル馬ヲ二頭シカ出スコトガ出來ナカッタノデアリマス、又府内ニハ競馬場ヲ持タナイノデアリマス、或ハ執務員ニ於テモ、競馬法ニ依ル競馬ノ理事トカ云フ者ガ兼ネテ居ッテ、全ク適法ノ執務員ヲ出スコトガ出來ナイト云フ位ニ、悉ク違法ナノデアアル、然ルニ一方馬ノ組合ガアル、此馬ノ組合ハ全然馬ヲ持ッテ居ナイノデ、地方競馬ノ權利ハナイ、故ニ馬ヲドウシテ改良スルカ、或ハ増殖スルカト云フコトノ財源ガナイ、一方ハ競馬ニ依ッテ得タ所ノ剩餘金ヲ貯メテ居ルガ、馬ヲ持タナイカラ使フ所ガナイ、斯ウ云フコトデ、全ク地方競馬規則ノ目的ヲ達スルコトニ甚ダ縁遠イコトヲヤッテ居ッテ、其中ニ互ニ相争ッテ居ルト云フ始末デ、此爲ニ却ッテ地方ニ禍根ヲ生ジテ居ルヤウナ次第デアリマス、斯ノ如キハ新ニ法ヲ作ラレルカ、或ハ勅令ヲ以テ嚴正ニヤラレルカ知リマセスガ、其時期ハ何時來ルカ知ラヌケレドモ、取敢ズ直チニ手ヲ著ケテ貰ッテ、相當之ニ對シテ處置シテ貰ハナケレバ、吾々見テ居ッテ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、將來ニ向ッテ此整頓或ハ改善ヲ圖ルト云フコトハ分ッテ居リマスガ、差向キ斯ノ如キモノハ斷乎トシテヤッテ貰フコトヲ希望スルノデアリマス

○町田國務大臣 地方競馬ヲ許シテ馬第デアリマス

事振興ノ普及ヲ圖ル意味カラ見テモ、地方競馬ノ狀態ガ今西村君ノ御話ノ如クデアアルハ意外デアリマス、實ハ私ハソレマデノ實狀トハ今日マデ知リマセヌデシタ、果シテ地方競馬ガ馬ヲ二頭シカ持ッテ居ラス、地方ノ組合ガ地方競馬ニ一向關係ガナイト云フコトニナレバ、地方競馬ヲ許シタ趣意ニ背イテ居リマス、故ニ取急イデ取調ベマシテ、出來ルダケ地方競馬本來ノ目的ニ適フヤウニ、私ノ方デモ局長以下ヲ督勵シテ、此改善ヲ圖ルコトニ努力致シマス

○藤井委員 地方競馬ノ統一ト云フコトハ、全ク必要ナコトダト思ヒマスガ、政府ガ其御考ガアルナラバ、何故ソレヲ法律デ改正スルヤウナコトヲ御出シニナラヌノデスカ、特別ナル事情ガアルカ、若クハ此議會ニ種々ナ事故デ御出シニナラヌノデセウカ、改正スル必要ガ無イト云フ御考デ、御出シニナラヌノデセウカ

○戸田政府委員 地方競馬規則ハ御承知ノヤウニ、省令デアリマスノデ、競馬法トハ關係ガアリマセヌ、ソレデアリマスカラ、此度ノ競馬法トハ全然別

ノモノデ、今日地方競馬規則デ動イテ居ルモノデアリマス、先程農林大臣ノ御話ニナリマシタヤウニ、地方競馬規則ニ付テハ、相當ノ考慮ヲシテ居ルカ

○藤井委員 私ハ競馬ハ知リマセヌ

ガ、省令デヤッテ居ルコトハ存ジテ居リマス、唯私ノ申上ゲルコトハ、先程モ西村代議士カラ御話ガアリマシタ通り、之ヲ不統一ニシテ置キマス、各府縣ニ於テ府縣知事等ガ省令ニ從ッテ、様々ナル様式デ統一ナクナッテ居リマスナラバ、吾々御同様ニ心配シテ居リマスルヤウナ、馬事振興ニハナラナイデ、却テ射倖心ヲ煽ルコトニナリ、ソレガ不統一デアリマスカラ、之ヲ將來改メヨウト致シマシテモ、ソレヲ改メルコトガ容易デナイト考ヘルノデアリマス、ソレデ若シ改メルト致シマシテ、射倖心ヲ矯正シテ、馬事振興ノ方ニ力ヲ注ガウト云フコトデアリマスナラバ、其弊害ガ地方ノ馬産ニ關係スル者、若クハ競馬ヲ致ス人方ニ、ソレガ浸潤シナイ中ニ、其弊害ヲ除去シタガ、寧ロ馬産振興ノ爲ニ宜イト考ヘルノデアリマスカラ、省令ニ依ッテ各府縣知事ガ之ヲアレヤ是ヤト致スヨリモ、競馬法ト同様ニ地方競馬ヲ統一シ、本改正案ノ趣旨ニ添フヤウニシタ方ガ、寧ロ馬事振興ノ爲ニモ、射倖心ヲ抑ヘル上ニモ宜イト思ヒマス、何カ特別ナル障礙ガアッテ、地方競馬ノ法規ヲ統一スルコトガ出來ナイノデアアルカドウカ伺ヒタイト思ヒマス

○戸田政府委員 御承知ノヤウニ全國

的ニ馬ノ能力鍛練ヲ致シマス競馬俱樂部ハ、競馬法ニ依リマシテ、當分ノ間ハ十一ト云フコトニシテ居ル、地方競馬ヲ若シ法律デスルト云フコトニスレバ、現在デハ省令デ認メテ居ル箇所數ハ百餘ニナッテ居ル、今日ノ地方競馬其他カラ考ヘマシテ、地方ノ馬券ヲ發賣スル競馬數ハ百有餘認メルコトガ果シテ實狀ニ適スルヤ否ヤト云フコトハ、大ニ考慮ヲ要スル問題デアリマス、先ヅ第一トシマシテハ、今迄ノ進ミ方トシテ、現狀トシテハ、相當ノ競馬場數ノ整理ガ略、一段落著イタノデアリマス、是カラ内容ノ改善、競馬ノ成ベク整然ト行ハレルヤウニシテ行キタイト思フノデアリマス、地方競馬ノ使命カラ申シマシテモ、今日デハ省令ノ程度デ差支ナイト考ヘテ居リマス

○難波委員 今度ノ改正案ガ通過致シ

マシテ、實施サレル結果ニナリマス、從來地方ノ府縣或ハ公共團體ニ納メテ居ッタ公認競馬ノ金額ガ、救護法案ノ方ニ捲上ゲラレルト云フ憂ヒガアルノデアリマス、其結果ハ自然地方ノ歲入缺陥トナッテ、財源ニ苦シムコトニナルノデアリマスガ、此歲入缺陥ノ補ヒノ爲ニハ恐ラク地方競馬ト云フモノヲ目標ニシテ、是カラ取ルト云フコトニ、轉嫁サレハシナイカト云フ憂ヒガアルノデ

アリマスガ、サウ致シマス、自然地方競馬ナルモノ、增收ヲ考ヘテヤラナケレバナラスト云フ結果ニ相成ルノデアリマスガ、此點ニ付テ所見ハ如何デアリマスカ

○町田國務大臣 難波委員ノ只今ノ御話ハ御尤ノコト、思ヒマス、此案ヲ作リマス時ニ、從來公認競馬ノ十一箇所ノ場所ノ中ニハ、大抵ノ所ハ地方税ノ名前ニ依ッテ、若クハ地方税ト云フコトヲ避ケル爲ニ、地方府縣等ニ納付金ノ形デ、多クハヤッテ居リマスガ、其總高ハ六十萬圓位ニ達シテ居ルノデアリマス、一競馬平均五萬圓以上ト相成ルノデアリマス、此度ハ之ヲ改正シテ、今後公認競馬ニ對シテハ一切地方税ヲ課セヌコトニナリマシタ、結果ニ於キマシテ内務當局ニ於テハ、之ニ依ッテ生ズル所ノ地方財源ノ減少ヲ、如何ニシテ補填スルカニ付テ、相當考慮サレテ居ルノデアリマス、或ハ觀覽税ト云フヤウナモノヲ設ケテ、地方競馬カラ一部其收入ヲ圖ルデナイカト思ハレル所モアルヤウデアリマス、必シモ各地方同一ニ參ルトハ承リマセヌガ、地方競馬ノ盛ナ所ニ於テハ、幾分カ納付金ヲ取ツテモ、地方競馬ノ發達ニ妨ゲナイト云フ所ハ、幾分カヤルト承ッテ居リマス、出來ルナラバ其詳細ハ内務大臣自ラ出テ御答ヘスルコトニ相成ッテ居リマスガ

○藤井委員 唯主要ナ點ダケ御尋ネ致シマス、本日陸軍大臣ガ御出ニナリマシタガ、ツイ最後ノ結末ヲ御尋ネシナイデ、又明日ニ延バシタヤウナ譯デアリマスガ、要スルニ陸軍大臣ノ御説明ヲ承ッテ見マシテモ、ドウモ本法ヲ制定致シマシタ當初ノ目的ト云フモノニハ、未ダ到著セズシテ、馬事ノ改良増殖ニ付キマシテモ、又馬事思想ノ普及ニ付キマシテモ、其域ニハ全然達シナイヤウニ思フノデアリマス、農林大臣ト致シマシテハ、既ニ本法ガ制定サレマシタ當初ノ目的ガ、十分豫期ノ如ク到達シタモノデアルト御考ヘニナッテ居リマセウカ、ソレヲ最初ニ御尋ネシテ置キマス

○町田國務大臣 先般本會議ニ於キマシテモ、藤井君ノ大體ノ意見ガ、其邊モ這入ッテ居ッタヤウデアリマスガ、大體ニ於テハ馬事振興ニ關スル第二計畫ガ、今途中ニアルノデアリマス、ソレハ御承知ノ通り、曾テ國防ノ上カラ定メマシタ少クトモ百五十萬圓ヲ維持スル計畫ハ、今日ハ立ッテ居リマセヌ、一時百五十萬圓ニ參リマシタガ、近頃幾分カソレガ減ジテ來ルト云フ狀態デアリマス、私共素人トシテ色々兵器ノ改良、豫算ノ上デハ百六十萬圓、實收百四十

カラ見マシテモ、戰術ト申シマスカ何ト申シマスカ、サウ云フヤウナ方面カラ申シマス、或ハ馬ノ需要ガ幾分カ減リハセヌカト私共考ヘテ居ッタガ、能ク承ルト種々ナル新シイ兵器、從來ノ兵器ヲ改良致シテモ日本ノ國防上ハ少クトモ百五十萬圓ノ馬ガナケレバイカスト云フコトハ、爭フ餘地ノナイ明カナコトナノデアルト、最近ニモ承ッテ居リマス、其點カラ見マス、今日ノ狀態ニ見マシテ、種馬ノ改良充實ヲ圖ルコト、竝ニ馬ノ使用等ニ對シテ長イ間ノ問題デアル牧野ヲ整理スルヤウナコトガ、最モ急務ト思ヒマス、左様申シマス、ソコニ此前モ御尋ノ如ク、然ラバ馬事振興ノ爲ニ必要ナル經費ヲ、十分此改正ニ依テ之ヲ馬事ニ用ヒテ、將來相當ナ計畫ガ完備シカ、ッタ時ニ於テ、始メテ此歲入ノ一部ヲ他ニ移シタ方ガ宜カラウト云フ御議論モアルコト、思ヒマス、是モ御尤モナ御議論デアリマスガ、外國ノ例ニ依リマシテモ、矢張馬事振興ノ爲ニハ、モウ是デ澤山ダトハ參ラズ、矢張年々新ニ馬事ニ使フ經費ガ殖エツ、アルノデアリマス、其點カラ見マス、或ル年數ガ經レバ、モウ馬事ニ對シテ經費ヲ減ラシテモ宜シイト云フコトニ、目安ガ付キマセヌ、同時ニ此度ノヤウニ相當ナ、從來マデ豫算ノ上デハ百六十萬圓、實收百四十

萬内外ト思ヒマス、サウ云フ按排ニ取ッテ居リマス上ニ、更ニ二百萬モ新タナ收入ヲ舉ゲルト云フ場合ニ於キマシテハ、歐米各國ノ例ニ依テ、之ヲ此席デ罪滅シト云フ言葉ハ宜クナイト思ヒマスガ、兎モ角モ或ル富籤類似ノ、刑法デ禁ジテアルコトヲ特別法ニ依テ許スノデアリマス、其意味カラ出來ルダケ風教ヲ案サヌヤウナコト、同時ニ、其收入ノ一部ヲ社會事業、就中貧困ナル賴リノナイ者ニ一部ヲ投ズルト云フコトハ、各國ノ例ニ依リマシテモ、斯様ナ收入ハ救護法ノ如キモノニ使フコトハ、先ヅ列國何レノ國モヤッテ居ルコトデアリマスガ故ニ、之ニモ用ユル、併シ若シ此間ニ限界ヲ付ケテ置カヌ場合ニハ將來人間ノコトバカリ考ヘテ、馬ノコトヲ輕ンズルト云フ意味ニナレバ、此法律ヲ改正シタ趣意ニ背キマスガ故ニ、立法技術ノ上ニ於テハ、非常ニ困難ナ問題デアリマス、私ハ内情ヲ申シマスレバ、立法技術ノ上ニ於テ斯様ナ財源ヲ法律ニ依テ使途ヲ定メルト云フコトハ、先ヅ日本ノ法律トシテモ珍シイ法律デアリマスガ、憲法其他法律ノ點カラ新シイ特例ヲ作リマシテ、三分ノ二以上ハ馬事振興ニ使フ、社會事業ニ使フモノハ三分ノ一ヲ上ラスト云フ、間ニ限界ヲ付ケテ置キマシテ、一面社會事業ニ用ヒルト同時ニ、將來益、馬

新シイ兵器ノ出來マヌヤウナ色々ナ點

○町田國務大臣 先般本會議ニ於キマシテモ、藤井君ノ大體ノ意見ガ、其邊モ這入ッテ居ッタヤウデアリマスガ、大體ニ於テハ馬事振興ニ關スル第二計畫ガ、今途中ニアルノデアリマス、ソレハ御承知ノ通り、曾テ國防ノ上カラ定メマシタ少クトモ百五十萬圓ヲ維持スル計畫ハ、今日ハ立ッテ居リマセヌ、一時百五十萬圓ニ參リマシタガ、近頃幾分カソレガ減ジテ來ルト云フ狀態デアリマス、私共素人トシテ色々兵器ノ改良、豫算ノ上デハ百六十萬圓、實收百四十

萬内外ト思ヒマス、サウ云フ按排ニ取ッテ居リマス上ニ、更ニ二百萬モ新タナ收入ヲ舉ゲルト云フ場合ニ於キマシテハ、歐米各國ノ例ニ依テ、之ヲ此席デ罪滅シト云フ言葉ハ宜クナイト思ヒマスガ、兎モ角モ或ル富籤類似ノ、刑法デ禁ジテアルコトヲ特別法ニ依テ許スノデアリマス、其意味カラ出來ルダケ風教ヲ案サヌヤウナコト、同時ニ、其收入ノ一部ヲ社會事業、就中貧困ナル賴リノナイ者ニ一部ヲ投ズルト云フコトハ、各國ノ例ニ依リマシテモ、斯様ナ收入ハ救護法ノ如キモノニ使フコトハ、先ヅ列國何レノ國モヤッテ居ルコトデアリマスガ故ニ、之ニモ用ユル、併シ若シ此間ニ限界ヲ付ケテ置カヌ場合ニハ將來人間ノコトバカリ考ヘテ、馬ノコトヲ輕ンズルト云フ意味ニナレバ、此法律ヲ改正シタ趣意ニ背キマスガ故ニ、立法技術ノ上ニ於テハ、非常ニ困難ナ問題デアリマス、私ハ内情ヲ申シマスレバ、立法技術ノ上ニ於テ斯様ナ財源ヲ法律ニ依テ使途ヲ定メルト云フコトハ、先ヅ日本ノ法律トシテモ珍シイ法律デアリマスガ、憲法其他法律ノ點カラ新シイ特例ヲ作リマシテ、三分ノ二以上ハ馬事振興ニ使フ、社會事業ニ使フモノハ三分ノ一ヲ上ラスト云フ、間ニ限界ヲ付ケテ置キマシテ、一面社會事業ニ用ヒルト同時ニ、將來益、馬

社會事業ニ用ヒルト同時ニ、將來益、馬

事振興ノ爲ニ多ク使フ、將來收入ガ増
加スレバ増加スルニ從テ馬事ノ方ニ
使フ分量ハ優テ行クト云フ建前デア
リマス、尙ホ是モ此席申シテハ少シ
行過ギテ居ルヤウデアリマスガ、將來
此收入ガ假ニ四百萬圓ニ相成ルトシテ
モ、當分ノ間ハ救護法ノ財源トシテハ
百萬圓ニ止メテ宜シイ、アトノ三百萬
圓ハ馬事振興ニ使フテモ宜シイト云フ
申合セテ致シテ居ル程ニ、馬事ノ方ニ
重キヲ置イテ居リマス事情モ、併セテ
御參考ノ爲ニ申上ゲテ置キマス

○藤井委員 サウスルト此改正ニ依
テ得マシタ、例ヘバ只今例ガアリマシ
タガ、四百萬圓ノ收入ガアルナラバ、
三分ノ二ト云フコトニハナツテ居ルケ
レドモ、救護法ノ方ニハ百萬圓使フ、
一方ニ三百萬圓ヲ御使ヒニナル、大體
斯ウ云フ諒解ヲ得テ居ルト云フ御話ノ
ヤウデアリマスガ、サウスルト一寸御
尋ネシテ置キタイノハ、從來農林省ガ
本案改正ニ依ラナクトモ、馬事振興ノ
爲ニ計上シテ居リマスヤウナ金額ハ、
大體ドウ云フヤウナ振合ニナルノデゴ
ザイマセウカ、詰リ此改正ニ依ツテ得マ
シタ金ダケデ以テ、從來農林省ガオヤ
リニナツテ居タ其經費ニモ充テ、シマ
フノダ、斯ウ云フ事ニ理解シテ宜イノ
デアリマセウカ、ソレトモ他ニ異ツタ
御考ニナツテ居リマセウカ

○町田國務大臣 追加豫算デ御協賛ヲ
得ツ、アリマス如ク、此度ノ改正ニ依
テ得マシタ新ナル財源ガ、假ニ二百萬
圓アルト致シマシテ、サウ致シマス
此中カラ百萬圓ハ、昭和七年度以降ハ
救護法ニ參リマス、農林省デ持ツテ居ル
モノハ百萬圓ニ相成ルノデアリマス、
サウスルト此度ノ改正ニ依ツテ得タ收
入ニ對シテハ、半々ニナルト御考ヘ下
スツテモ宜シイノデアリマス、併シ農林
省ハ競馬法ノ創定以來、竝ニ第一回ノ
改正ニ依ツテ、今ハ豫算ノ上ニ於テハ百
六十萬圓位ノ收入ガアルノデアリマ
ス、ソレニ今度ノ新ナ改正ヲ加ヘマス
ト、二百六十萬圓ハ此財源トシテ得タ
モノ、中ノ馬事振興ニ使フ金デアリマ
ス、左様致シテ救護法ニ百萬圓行キマ
スレバ、三分ノ一以上ニナルデヤナイ
カト云フ計算モ出來マス、ソレハ先刻
申上ゲマシタ通り、今マデ地方稅若ク
ハ地方ニ於ケル納付金トシテ、內務省
ガ取ツテ居タ六十萬圓ヲ、全部農林省
ノ方ヘ返シテ來ルト云フ計算ヲ差引イ
テ御考ヘ下サルコトヲ、私ハ希望スル
ノデアリマス、ソレカラ從來ハ競馬收
入百六十萬圓近イモノヲバ、前内閣ノ
時ニ新ナ財源トシテ得マシテ、之ヲ確
カ十項バカリニ分ツテ、皆馬事振興ノ方
ニ使ハレテアル豫算ガ出來テ居ルノデ
アリマス、此度ノ豫算ニ於キマシテハ、

其當時百六十萬圓ノ新ナ財源ニ依ツテ、
七八ノ種目ヲ馬事振興ノ爲ニ與ヘタモ
ノ、先刻ドナタカノ御批評モアッタ如
ク、七十萬圓バカリニナツテ居ルヤウ
デアリマス、當時政友會内閣ノ此改正
ノ時ニ、此收入ハ全部馬事振興ニ用ヒ
テ、一切他ノ方ニ使ハスト云フ御言明
ノ下ニ是ガ通ツテ、政友會ノ内閣ノ豫算
ハ確ニ百六十萬圓ノ内百四十萬圓ハ馬
事振興ニ使ハレテ居リマス、ソレヲ緊
縮豫算ヲ作ル必要上、百三十萬圓カ百
四十萬圓ノ内、七十萬圓位ハ減ジタノ
デアリマス、是ガ御議論ノアル點デ御
意見ノ出ルノハ御尤デアリマス、併シ
一面ニハ斯ウ御考ヘ下サレバ宜シイ、
馬事振興ニ關スル豫算トシテ、極メテ
緊縮ヲ必要トシタ今日ニ於キマシテ
モ、農林省ハ二百六十萬圓ノ豫算ヲ取
テ居リマス、而シテ競馬法ニ依ツテ得
ルベキ財源ハ、豫算面ニ於テハ百六十
萬圓ト相成ツテ居リマス、馬事振興ノ
經費ハ競馬法ニ依ツテ得タ收入ダケデ
ハ足リマセヌガ故ニ、一般財源カラ更
ニ百萬圓ヲ加ヘテ、二百六十萬圓ヲ出
シテ居ル、唯問題ハ前内閣ガ改正セラ
レテ、新ニ收入ガ増加シタ百六十萬圓
ヲ以テ、新ナ費目ヲ設ケマシタ、其費
目ノ或モノハ減ゼラレテ居ツテ、馬事振
興ノ他ノ費目ノ方ニ之ヲ振替ヘタノハ
事實デアリマス、ソレハ緩急ヲ計リマ

シテ、從來アリマス馬事振興ノ費目ヲ
相當増シテ、新ニ作リマシタ費目ヲバ
此際相當輕ク致シテモ、他ヲ重ク見ル
コトノ必要アルガ爲ニ、其方ニ移シタ、
大體ニ於テハ今年ノ豫算ニ於テモ、二
百六十萬圓ト云フ馬事振興費ヲ要求シ
テ居ル、而シテ其中ニハ百六十萬圓ト
云フ競馬ニ依ツタ收入以上ニ、百萬圓ヲ
馬事振興ノ爲ニ使フテ居ル、斯ウ大體御
考ヘ下サレバ、御諒解下サルコト、存
ジマス

○藤井委員 何ダカ分ッタクヤウデ分ラ
ヌヤウデアリマスガ、私ノ頭ガ惡イノ
カモ知レマセヌガ、斯ウ云フヤウニシ
タラ、ハッキリ分ルト思ヒマス、政友會
内閣當時ニ於キマシテモ、既定ノ經費
ガ二百十六萬圓程ニ、五十六議會ニ於
テナツテ居タト思フノデアリマス、之
ニ尙ホ田中内閣當時ノ競馬法改正ノ結
果政府ノ特別ナ收入ガ百四十五萬圓ア
ル、詰リ既定經費二百十六萬圓ト云フ
モノガ、既ニ馬事振興、或ハ畜產獎勵、
斯ウ云フモノ、爲ニ使用サレテ居ツテ、
尙ホ改正ニ依ツテ百四十五萬圓ノ金ガ
出ルカラ、之ヲ馬事振興ニ使フノデア
ル、斯ウ云フ趣意ノ下ニ吾々ガ協賛ヲ
與ヘタ筈デアリマスガ、然ラバ現内閣
ハ此改正ヲセズシテ、馬事振興トシテ
大體ドレダケノ經費ヲ計上サレテ居リ
マスガ、是ハ大變重大ナ事デゴザイマ

スカラ御尋ね致シマス、是ハ局長デ宜シウゴザイマス

クナイト思ヒマシタ故ニ、新タナ收入ニ依ッテ先年設ケラレタ費目ノ經費ヲ、從來アル馬事振興ノ方ニモ振向ケタノデアリマス、其點ハ御議論ガアレバアル所ト思ヒマス、併シ之ヲ總括シテ、競馬ノ收入ガ百四五十萬圓ニ止ッテ居ルニ拘ラズ、一般財源カラモ繰入レテ當年ノ豫算ニ於テモ二百六十萬圓ダケハ馬事振興ノ爲ニ用ヒテ居ル、若シ是ガ馬事振興ニ關スル各種目ノ經費ノ總高ガ、競馬ニ依ッテ得タ收入以下ニ下ッタナラバ、是ハ大問題デアリマスガ、ソレハ致シテ居ラス、只遺憾デアリマシタガ、財政緊縮ノ結果、已ムヲ得ヌカラ振興ニ關スル各種目ノ經費ヲ總括シテ二百六十萬圓トシ、競馬ニ依ッテ收入ガ百四五十萬圓、一般財源カラ馬事振興ノ爲ニ繰入レタ財源ガ百萬圓デアリマス、斯ウ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマス

○藤井委員 サウスルト、假リニ六年度ニ於テ三百五十萬圓ト致シテモ、其中ノ殆ド二百六十萬圓ト云フモノハ、競馬ニ依ッテ得タ金デアリマスルカラ、一般會計カラ來マスル金額ハ約百萬圓足ラズノ九十萬圓ト諒解シテ差支アリマセヌカ

加スルコトデアリマスカラ、其程度マデハ取レル、其上ニ又此度ノ改正ニ依リ、假ニ六年度ニ於テ二百五十萬圓ノ收入ガアルトスレバ、四五百萬圓ノ費用ガ馬事振興ノ爲ニ使ハレルコトガ出來ルニモ拘ラズ、只財源ヲ得テ、一般會計ノ方カラ持ッテ來ナイデ、豫算ヲ計上スルコトニナルト、本法改正ノ目的ハ、要スルニ只財源ヲ得ル爲メニノミ作ッタノデハナイカ、政府ニ誠意ガアルナラバ、出來ルダケ馬事振興ノ爲ニ多クノ財源ヲ作りマシテ、又其金ヲ馬事振興ノ爲ニ使用致シ、サウシテ畜産殊ニ馬ノ獎勵ヲ御圖リニナルコトガ、最モ必要ナリト考ヘルノデアリマス、今朝モ陸軍大臣ノ御説明ヲ承リマシタガ、吾々ハ國防上非常ニ不安デハナイカト考ヘル、機械工業ガ發達シテ自動車其他之ニ類スルモノガ發達致シタ結果、馬ハ段々ニ減少シテ來ルノデアリマス、如何ニ政府ガ馬事振興ヲ爲サレマシテモ、是等ノモノニ壓倒サレル傾キガアリマスコトハ、明カデアリマスカラ、年々馬ノ數ハ減ッテ行キマス、ソレガ産業上ニ非常ナ害ハ無イカモ知レマセヌケレドモ、國防上ニ於テハ洵ニ重大ナ影響ヲ來タスモノト吾々ハ考ヘルノデアリマスカラ、百五十萬圓ヲ維持スル爲ニハ、農林省ト致シマシテモ、馬産家諸君ガ作リマス馬ト云

○町田國務大臣 今ノ私ノ申上ゲ様モ少シ諄カッタカモ知レマセヌガ、概念ヲ御作り下サル材料トシテ申シタノデアリマシタガ、馬事振興ノ爲ニ三百五十萬圓費シタ年モアルト記憶シテ居リマス、併シ財政ノ現狀カラ見マシテモ、各省色々ナ臨時費經常費ノ節約等モ致シマシタ時ニ、他ト同様ニ馬事振興ニ關スル三百五十萬圓ノ内、相當ナモノヲ各省トモ同様ナ意味ヲ以テ減ジナケレバ、豫算ノ編成ガ困難デアリマシタガ爲ニ、各省各之ヲ減ズルコトニ已ムヲ得ヌメタノデアリマス、而シテ御話ノ通り前内閣ノ時ノ改正ニ依ッテ百六七十萬圓收入ガ出タ、其中ノ百四十萬圓餘ハ馬事振興ノ爲ニ費サレテ、色々百四十萬圓ヲ振向ケル七八ノ項目ガ列舉サレテアリマス、其列舉シタ項目ニ對シテ、改正ニ依ッテ得ラレタ所ノ競馬ノ收入ヲ、其各項ニ其通り當嵌メテ用ヒタカト云フコトニナリマスルト、ソレハ用ヒテ居リマセヌ、前カラ馬事振興ニ對シテ、相當大キナ施設ヲヤッテ居ルモノガアリマスルガ故ニ、其施設ノ一部ヲ減ジテ、一昨年新ニ作りマシタヤウナ費目ノミヲ其儘ニシテ置イテ、更ニ重大ト思ハル、モノヲバ非常ニ減ズルコトハ馬事振興ノ爲ニ宜シ

○藤井委員 サウスルト總括シテ六年度ノ豫算ニ於キマシテハ、馬事振興ノ爲ニ計上シマシタ金額ハドレダケニナリマスカ

○町田國務大臣 二百六十萬圓トシテ、更ニ此度ノ追加豫算ニ依ッテ五十萬圓ガ加ハルノデアリマス、來年此改正ニ依ッテ得ル收入ガ加ハリマス、更ニ是ガ百萬圓以上増加スルノデアリマ

クハ二百萬圓程度ノ豫算ハ——年々増

フモノガ出來ルダケ農村ノ生産費ニ相償フヤウニ、隨テ又農民ガ努メテ馬ヲ作ルヤウニシテ、農林、陸軍力ヲ協セテヤラナケレバ、私ハ百五十萬圓ノ維持ハ絕對ニ不可能ト思ヒマス、デアリマスカラ、他ノ豫算トハ異リマシテ馬事振興ノ爲メ、産業ノ爲メ一方ニ於テハ國防ノ爲デアルト云フ意味ヲ徹底セシメルニハ、從來ノ一般會計ノ二百萬圓ノ經費ト、尙ホ此改正ノ爲ニ得マシタ收入ヲ合致サセテ、サウシテ馬事振興ノ爲ニ使用スルコトハ、農林當局トシテモ陸軍當局トシテモ最モ大切ナコト、思ヒマスガ、農林大臣ハ此點ニ付テ如何ナル御考ガアリマスカ

○町田國務大臣 藤井君ノ御意見ハ全然同感デアリマス、只一昨年以來種種ナル原因ニ依ッテ財界ノ不況ハ御承知ノ通りデアリマス、御話ノ政友會内閣ノ時ニハ、三百五十萬圓ガ馬事振興ノ爲ニ使ハレテ居ッタヤツガ、此度ハ二百六十萬圓、九十萬圓位減タト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、併シ如何ニシテモ他ノ經費ヲ大ニ減サナケレバナラヌ際ニ、馬事振興ノ經費ダケヲ増スコトハ、豫算編成ノ大體ノ上カラ見テ困難デアリマス、アナタ方ノ内閣ノ時ニ御作リニナッタ豫算カラ見レバ、三億カラ減ッテ居ルト云フ際ニ、各省各局何レモ已ムヲ得ズ相當ナ節減ヲ致シタ、ソ

レト同ジ意味ヲ以テ馬事振興費モヤハリ減ッタノデアリマシテ、他ノ費用ニ更ニ節約ヲ加ヘテ、馬事振興ニ限ッテ經費ヲ増加スルコト云フコトハ、私トシテモ實現ヲ圖ル譯ニ參ラナカッタ事情ハ御諒承ヲ願ヒマス、故ニ此度ハ、國防上カラ見マシテモ、馬匹ノ充實ヲ圖ラナケレバナラス、本年度ニ於キマシテハ、凡ソ百五、六十萬圓ト思ヒマス、其中ノ全部ヲ、或ハ種馬ノ充實、或ハ牧野、就中種馬ノ充實ニ對シテ、今後毎年六十萬圓ヲ使フト云フコトニ依ッテ、只今御心配ノ國防上ニ必要ナ程度ニマデ之ヲ進メルコトハ、必ズ出來得ルト確信致シテ居リマスルガ故ニ、今年ノ豫算ノ已ムヲ得ズ之ヲ減ズルコトノ餘儀ナキニ至ッタコトハ、是ハ御諒解ヲ願フノ外アリマセス

○藤井委員 サウシマスルト、昭和六年度ニ於テハ二百六十萬圓程ノ收入ガアリマスルガ、今後此收入ガ、例ヘバ四百萬圓ニナリ或ハ五百萬圓ニナルト云フヤウナコトニナリマシタ際ニハ、一般會計カラ入りマスル金ノ方ハ、出來ルダケ削ッテ、全然競馬法改正ニ依ッテ得タ金ノミヲ以テ馬事振興、馬事關係ノモノニ充當スル御考ヘデアルカ、ソレトモ又只今五百萬、六百萬、極端ナ話デアリマスルガ、ソレガ七百萬トナッタ際ニハ、三分ノ一ハ救護法ニ使ヒ、殘ッタ全部ノモノハ、全然馬事振興ノ爲ニ使フ、而モ馬事振興ノ爲ニ使ヒマスニハ、一般會計ノ方カラハ少シモ他ノ財源ノ御世話ニナラズニ、ソレヲ以テヤル御考ヘデアルカ、ソレトモ又財界ノ狀況ガ建直ルヤウニナリマシテ、國家ノ收入ガ増加スルヤウナ際ニナリマシタナラバ、一般會計ノ方カラモ取ッテ、サウシテ一方本法改正ニ依ッテ得マシタ競馬法ノ政府ノ收入金モ、合セテ之ヲ御使ヒニナル御考デアリマスルカ、其點ヲ明確ニ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

○町田國務大臣 是又御尤モナ御尋デアリマス、是ハ來年ノ豫算ヲ編成スル時デナクテハ分リマセヌガ、只今ノ御尋ニ對シテハ三ツニ分チテ御答ヲ致シマス、私共ハ左様ナ時代ガアルトハ思ヒマセヌ、是レ以上ニ財界ガ一層不況ノ深刻サヲ加ヘルト云フコトハ斷ジテ考ヘマセヌ、稍、好況ノ時代ニ向ヒツ、アルト見ルベキ徵候ヲ、幾多有シテ居リマスルガ故ニ、是レ以上財界ガ惡クナルトモ思ヒマセヌ、隨テ國家ノ收入ガ減ルトハ思ヒマセヌ、併シ御尋ノ如ク、若シ收入ガ一層減ッテ、豫算ノ上ニ一層緊縮ヲ加ヘナケレバナラス場合ガアリト假定致シマスレバ、馬事振興費ノ中ノ、競馬ニ依ッテ得タ收入ハ、勿論是ハ保留致シテ置キマス、而シテ殘ル

一般會計カラ——現ニ入ッテ居ルノハ約百萬圓ト思ヒマス、更ニ之ヲ一般會計ニ於テ緊縮シナケレバナラスト云フ場合ニハ、其同ジ割合ニ於テ是ガ減ルカモ知レマセヌ、是ハ已ムヲ得マセヌ、若シサウ云フコトガアルト假定致シマスレバ——私ハ財界ノ現狀カラ見テ、斷ジテ左様ナ事ガナイト思ヒマス、之ト反對ニ、今後國家ノ收入ガ相當増シテ、緊縮シタル豫算ガ、幾分力之ニ緩ミヲ付ケテ増スコトガ出來ルトスレバ、農林省ガ有シテ居ル此特別ナ財源ノ外ニ、一般財源カラ現ニ百萬圓入ッテ居ルモノハ、更ニ二百二十萬圓トカ百三十萬圓トカ、次第ニ之ヲ増スコトハ勿論デアリマス

○藤井委員 是ハ競馬法改正ニ依ッテ出來マス財源ノ問題デアリマスカラ、色々御尋ネ致シタイノデアリマスガ、此際ハ會期モ切迫シテ居リマスカラ、御迷惑ト思ヒマスノデ、其點ハ御尋ネ致シマセヌ、唯吾々ガ政府ト所見ヲ異ニシテ居リマスノハ、明年度ニ於キマシテ又平年度ニ於キマシテ、政府ノ豫期シタ通りノ收入ガ、競馬法改正ニ依ッテナカッタ際ニハ、政府ハドウ云フ風ニ馬事振興ノ計畫ヲ爲サル積リデアルカ、例ヘバ所期ノ豫定額ヨリ不足ノ際ハ、一般會計カラ持ッテ來テ之ニ充當ナサルノデアルカ、競馬法ヲ改正シタケ

レト同ジ意味ヲ以テ馬事振興費モヤハリ減ッタノデアリマシテ、他ノ費用ニ更ニ節約ヲ加ヘテ、馬事振興ニ限ッテ經費ヲ増加スルコト云フコトハ、私トシテモ實現ヲ圖ル譯ニ參ラナカッタ事情ハ御諒承ヲ願ヒマス、故ニ此度ハ、國防上カラ見マシテモ、馬匹ノ充實ヲ圖ラナケレバナラス、本年度ニ於キマシテハ、凡ソ百五、六十萬圓ト思ヒマス、其中ノ全部ヲ、或ハ種馬ノ充實、或ハ牧野、就中種馬ノ充實ニ對シテ、今後毎年六十萬圓ヲ使フト云フコトニ依ッテ、只今御心配ノ國防上ニ必要ナ程度ニマデ之ヲ進メルコトハ、必ズ出來得ルト確信致シテ居リマスルガ故ニ、今年ノ豫算ノ已ムヲ得ズ之ヲ減ズルコトノ餘儀ナキニ至ッタコトハ、是ハ御諒解ヲ願フノ外アリマセス

○町田國務大臣 是又御尤モナ御尋デアリマス、是ハ來年ノ豫算ヲ編成スル時デナクテハ分リマセヌガ、只今ノ御尋ニ對シテハ三ツニ分チテ御答ヲ致シマス、私共ハ左様ナ時代ガアルトハ思ヒマセヌ、是レ以上ニ財界ガ一層不況ノ深刻サヲ加ヘルト云フコトハ斷ジテ考ヘマセヌ、稍、好況ノ時代ニ向ヒツ、アルト見ルベキ徵候ヲ、幾多有シテ居リマスルガ故ニ、是レ以上財界ガ惡クナルトモ思ヒマセヌ、隨テ國家ノ收入ガ減ルトハ思ヒマセヌ、併シ御尋ノ如ク、若シ收入ガ一層減ッテ、豫算ノ上ニ一層緊縮ヲ加ヘナケレバナラス場合ガアリト假定致シマスレバ、馬事振興費ノ中ノ、競馬ニ依ッテ得タ收入ハ、勿論是ハ保留致シテ置キマス、而シテ殘ル

レドモ、財源ガナカッタカラ致方ナイト云フノデアリマス、斯ウ云フコトヲハッキリ御伺ヒシテ置キタイと思ヒマス

○町田國務大臣 只今ノ御尋デアリマスガ、先刻申上ゲタコトヲ繰返シテ申上ゲル外アリマセヌ、多少タリトモ、財界ノ回復ニ向フ、サウ云フ時機ガ次第ニ參リマシテ、一般收入ガ増シマシテ各省ノ一時緊縮シタモノニ對シテ相當之ヲ増加シ得ラレル際ニ相成リマスルナラバ、競馬法ニ依ッテ得タ特別財源ノ外ニ、一般財源カラ百萬圓入ッテ居レバ、更ニ其割合ニ於テ増加スルコトハ勿論デアルト思ヒマス、此御答デ大體私ノ考ハ御了解ニナッタと思ヒマス

○藤井委員 サウシマス又茲ニ疑問ガ出ルコトニナリマスガ、農林大臣ノ御所見トシテハ財界ノ狀況ハ既ニ底ヲ突イタモノデアアル、此後ハ次第ニ景氣ガ回復シテ國家ノ收入ガ増スモノデアルト云フ御意見デアリマスケレドモ、若シ一步誤ッテ、財界ノ狀況ガ從來ノ儘デ、此一年間ヲ經過シ、若クハ來年マデ經過スルコトニナッテ、國家ノ收入モ増サナイ、一方又御承知ノ通り社會ノ狀況ガ不景氣デアリマスカラ、政府ガ豫期シタ所ノ競馬法改正ニ依ル收入ガナイ、斯ウ云フ場合ニ逢著スルト云フコトモ豫想サレルノデアリマス、サウ

云フ際ニモ尙ホ政府ハ、現在計畫サレテ居ル——田中内閣當時ニ計畫シタモノヨリハ、以下ノモノデアリマスケレドモ、辛ウジテ現在ノ御計畫ノ通りノ儘デ、他ノ一般財源ノ捻出ニ依ッテ飽マデ責任ヲ以テ馬事振興ノ爲ニ御使ヒニナル御考デアリマスカ、ソレヲ此際承ッテ置キタイ

○町田國務大臣 私ハ此改正ニ依ッテ豫期ノ收入ガ得ラレスト云フ場合ハ想像シテ居リマセヌ、私ハ必ズ此改正ニ依ッテ少クトモ二百萬圓ノ收入ハアルモノト確信致シテ居リマス、併シ社會ノ事情ニ依ッテ此收入ガ得ラヌ場合ガ萬一アッタ場合ニハ、ドウスルカト云フ御尋デアリマスケレバ、明年度豫算編成ノ時ニ於キマシテ、馬事振興費——私ノ方ニハ農村ヲ中心トシタル種々ナル施設モアレバ、水產畜產山林、色々ナル施設ガアリマス、其輕重、緩急ヲ圖ッテ之ヲ適當ニ按配考慮スルト申スヨリ外ナイノデ、決シテ馬事振興ヲ輕ク見ルト云フ意味デハ斷ジテアリマセヌガ、全體ヲ通ジマシテ緩急、輕重ヲ圖ッテ適當ニ按配スル、斯ウ申スヨリ外アリマセヌ

○藤井委員 ナゼ私ガ其點ヲ心配スルカト申シマスケレバ、實際競馬ノ事ハ私モ判リマセヌ、農林大臣デモ同ジコトデアラウト思ヒマス(笑聲)實際判リマ

セヌ、唯馬政ノ上カラ様々ナ數字等ヲ調べマシテ、此點ヲ考慮スルノデアリマスガ、昨日モテヨット伺ヒマシタガ、昭和四年度ニ田中内閣ガ馬事振興ノ爲ニ本法ヲ改正致シマシタケレドモ、政府ノ豫期ニ反シマシテ、實收額ニ於キマシテハ昭和四年度ニハ四十六萬餘圓減少シ、昭和五年度ニ於キマシテハ三十萬九千六百餘圓ト云フモノガ、豫期ニ反シテ減少致シテ居リマス、是等ヲ見マスト、政府ハ財源ヲ得ンガ爲ニ又財源確實デアルト云フ豫想ヲ與ヘルガ爲ニ、多ク見積リ豫算ニ過大ナ收入額ヲキメテ居ルノデアリマスケレドモ、結果ヲ見マスト、其豫期ニ反シタ莫大ナル減額ガ何時モ現ハレテ居ルノデアリマスケレバ、吾々ハ農林大臣ガ此處デ二百萬圓程度ノモノハ必ズ收入ヲ得ラレルモノダ、斯ウ御言明ニナリマシテモ、是ハ農林大臣御自身ノ御考デアルカラ吾々又深ク當局ニ御尋シナケレバナラヌガ、ドウモ此點ガ非常ニ不安ニ吾々ハ考ヘルノデアリマス、デアリマスルカラ、若シモ此儘デ農林省並ニ陸軍省等ガ馬事ノ振興ト云フモノヲ成行ニ委シテ居ルト云フコトニナリマスト、サウデナクテスラモ年々減少シマス馬ノ頭數ガ著シイノデアリマスカラ、成行ニ委シタヤウナコトヲヤッテ居リマス、殆ド農村ノ馬事ト云フモノ

ガ根本カラ破壊サレテシマヒハセヌカト思フノデアリマス、現ニ此處ニ馬ノ事ニ詳シイ山内君ガオイデバアリマスカ、地方カラ參リマス者共ノ話ヲ聞キマスト、本年ノ如キハ軍馬ノ方ハ値段ガ大シテ相違ハナカッタサウデアリマスケレドモ、他ノ一般ノ馬ノ賣買ニ至リマスト、昨年度ニ百萬圓シタ馬ガ五十圓ニナリ、五十圓ノ馬ガ二十五圓ニナリ、中ニハ十五圓ダノ、八圓ダノ、五圓ダノト云フヤウナ馬ガ事實アルト云フコトヲ承ッテ居ルノデアリマス、サウシテ一般ニ皆此儘デアルナラバ吾々ハ馬ヲ生産シテモ引合ハヌノデアアル、幾ラ産業ノ爲ダ、國家ノ爲ダト言ハレマシテモ引合ハナイ馬ヲ作ル譯ニハ參リマセヌ、斯ウ云フコトガ吾々馬產關係ノ地方ニ於ケル農民ノ眞ノ叫デアルト思ウテ居ルノデアリマス、何トカシテ之ヲ救済シテ百五十萬頭ヲ維持シ年々減リマス馬ノ數ヲ減ラナイヤウニ防ガウトスルニハ、他ノ様々ナル産業ノ問題モアリマセウ、産業獎勵ノコトモアリマセウ、ケレドモ特別ニ此問題ニ力ヲ入レナイナラバ、遂ニハ政府ノ豫期ニ反シマシテ馬產ト云フモノガ根本カラ衰滅スルモノデアルト思フノデアリマス、デアリマスカラ、私ガ極力此處デ主張シマス所以ノモノハ、此度ノ改正ヲオヤリニナルコトハ或ハ様々ナ議

論ガゴザイマセウケレドモ、政府ガ一般會計カラ得マス財源、改正ニ依ッテ得マシタル金ト力ヲ合セテ、馬事振興ノ爲ニ御使ヒニナルト云フコトデアリマヌナラバ、吾々ハ現在ノ馬事ノ狀態カラ考ヘ、將來ノ一旦事有ッテ際ノ國防ノ狀態カラ考ヘテ之ヲ迎ヘルノデアリマスケレドモ、從來田中内閣等ガヤリマシタ所ノ馬事振興ト云フモノハ尙ホ半バデアル、而シテ政府自ラ財源難ノ爲ニ其獎勵ヲ阻マレテ居ルヤウナ狀態ニ當リマシテ、此競馬法ノ改正ニ依ッテ得マシタ其金ヲ他ノ方ニ持ッテ行クト云フコトニナリマス、馬産關係ニ居リマスル農村ハ洵ニ豫期ニ反シタコトデアアル、取別ケ從來一般會計ニ於キマシテ二百萬デモ二百五十萬デモ得テ居リマシタ財源ヲバ農林省ガ少シモ與ヘナイデ、唯馬ノ方カラ取りマシタ金ヲ以テ、而モ其金ハ競馬ト云フ一種ノ射伴心ヲ誘導シマヌヤウナコトヲヤッテ居ッテ、サウシテ取ッテ來タ金ヲ殆ド唯馬事振興ノ名ノ下ニ、之ヲ充當サレルト云フコトニナルナラバ、從來一般會計カラ出テ居リマシタ農村ニ關係アル此馬事ニ關スル經費ノ既得權ト云フモノヲ、恰モ農民諸君ガ奪ハレタヤウナ感ガアリハシナイカ、此點カラ考ヘテ現内閣ノ農林當局ハ馬事ト云フコトニハ餘リ重キヲ置カナイ、一般會計ノ方カラ取

ル金ハ取ラナイデ、射伴心ヲ唆ッテ、サウシテ其金ヲ以テ只金ヲ取ッタノデアルカラ之ヲ馬事振興ニ使フノダト云フヤウナコトデ、御茶ヲ濁スヤウニ農民ハ思ヒハセスカ、サウヤウナコトニナリマス、農村ハ分ラナイデ居リマスガ、競馬法改正ニ依ッテ馬ノ費用ガ出ルノダ、其金ハ政府ガ使フノダト云フコトデハ、エライ農林省ガ好イコトヲヤッテ呉レルヤウニ御考デアリマスガ、實際内容ヲ調べテ見ルト從來一般會計カラ取ッタモノヲ少クサレルノデアアルカラ、既得權ヲ奪ハレルヤウナ氣ガシハシナイカ、寧ろ政府ト致シマシテハ、從來ノ既得權ハ之ヲ其儘保護サレテ、法律改正ニ依ッテ得マシタ金ハ一般會計ニ合セテ使ッテコソ、初メテ私ハ次第第二ニ減退シマス所ノ此馬事ト云フモノガ茲ニ曙光ヲ見マシテ、次第々々又百五十萬頭維持ト云フコトニモナリ、隨テ國防ノ計畫ノ上ニモ貢獻スルコトデアラウト思ヒマスガ、此點ニ付テ農林大臣ハ如何ナル御見解デアアルノデアリマスカ

○町田國務大臣 藤井サンノ御尋ニ對シテ大體御同感デアリマスガ、先刻モ申上ゲマシタ通り、昭和四年ノ政友會内閣ノ時ニ作ラレタ豫算ニ較ベマス、財界ノ事情ニ依ッテ總高ガ三億餘減ッテ居ルノデス、此三億ノ減ッタモノハ各省之ヲ適當ニ按配シテ、何處ノ省モ一割乃至甚シキニ至ッテハ、費目ニ依ッテハ非常ニ大キナ節約繰延ヲ致シタコトモアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、實ハ農林省ニハ農村振興費ト云フ特別ノ財源ガアルガ爲ニ、各省ニ較ベレバ比較的減額ノ率ハ大體ニ於テ少イト御覽下スツテ宜シイト思ヒマス、馬事振興費ノ中ニ政友會内閣ノ時ニ三百數十萬圓得マシタノヲ二百十萬圓ニナッタト云フノハ甚ダ遺憾デアリマス、故ニ何トカ之ヲ相當經費ヲ増加シタイト云フ意味ガ此度ノ競馬法改正ノ本ト相成ッテ、之ニ加フルニ社會上ノ必要カラ、其幾分ヲ救護法實施ノ財源ニ充テルト云フコトノ政治的必要モ生ジタノデアリマスガ、御意見ノ通り馬事振興ハ單リ産業上ノ問題トシテ重大ナルノミナラズ、其計畫ヲ中途ニ挫折セシムルコトノ出來ナイ重大ナル國防問題ガ加ッテ居リマスカラ、今後豫算ヲ作りマサル場合ニ、縦シンバ一般歳入ガ昨年以上ニ減ッタ場合アリトシテモ、國防ノ見地カラ見マシテ、一般財源カラ繰入レル部分ガ、是ヨリモ更ニ減ズルコトハナイト信ジテ居リマス、而シテ財源ニ多少ノ裕リガ出來マシタナラバ、更ニ此經費ガ増加シテ、一日モ早ク五百萬圓計畫ヲ確立スルコトガ國防上必要ナリトシテ、御希望ノ如ク其經費ヲ出

來ルダケ多ク取ルコトニ努力致スコトヲバ、茲ニ言明致シテ置キマス——尙米穀委員會カラ一寸出ルヤウニト再三催促ガ來テ居リマスカラ、改メテ出テ御答スルコトハ致シマスガ、暫時貴族院ノ米穀委員會ニ出ルコトヲ御許シ願ヒマス

○高橋(熊)委員 昨日御願ヲシテ置キマシタ馬政上ノ事業計畫ヲ伺ッタコトニ付テ、表カ何カニシテ御出シ下サルト云フ積リデ居ッタノデスガ、マダ出來上リマセスカ、ドウデスカ御伺致シマス

○戸田政府委員 高橋サンニ一寸御伺シマスガ、昨日御話ヲ承ッテ居ッタノト、只今ノ御話ト一寸私共ノ二諒解ガ違ッテ居ルノデスガ、只今ノ御話ハ、此度ノ競馬法ノ改正ニ依ッテ得ル財源カラ馬ニ關スル施設ヲスルト云フガドウ云フコトヲ行フノカト云フ意味ノ御尋デゴザイマセウカ、昨日私ノ方デ伺ッテ居ッタ諒解ト違ッテ居ルノデ、念ノ爲ニ伺ヒマス

○高橋(熊)委員 私ハ其事モ伺ッテ居ッタノデスシ、ソレカラ將來ノ年度ニ互ッテ、馬事振興ト云フヤウナモノガ一年ヤ二年デ終ルモノデナイカラ、將來ノ計畫ガナケレバナラス、ドウ云フ計畫ヲスルカト云フコトモ伺ッテ居ッタノデス

○戸田政府委員 ソレデハ馬ニ關スル

新規ノ豫算ニ付テノ大體ノコトヲ申上
ゲマス、ソレハ馬ニ關スル牧野ノ改良
獎勵費ハ、昨日申上ゲマシタウニ、
初年度ハ九萬五千九百四十六圓、七
年度以降二十六萬六千三百五十六圓
デアリマス、此馬ニ關スル牧野ノ改良獎勵
費ノコトハ、昨日御話申上ゲマシタ
ノ省略致シマス、次ハ種牡馬ノ充實ニ
關スル經費デアリマス、是ハ昭和六
年度ガ三十九萬五千三百七十九圓、昭和
七年度、即チ平年度ガ七十一萬八千二
百六十圓デアリマス、是ハ國有種牡馬
ノ千五百頭ト云フコトガ、馬政計畫
標準トナツテ居リマスガ、色々經費ノ都
合上數年前カラ、實際ニ於テハ千二百
五十頭ノ計數ニナツテ居リマシテ、民間
ニ委託繫養ヲシテ居ルノガ二百五十頭
デアリマス、要スルニ理想トスル國有
種牡馬千五百頭ノ中ニ、二百五十頭ノ
缺陷ガアル譯デアリマスカラ、ソレヲ
國有ニ直ス、サウシテ種牡馬ノ素質ノ
充實ヲ圖ルト云フノデアリマス、其事
ハ民有ノ種牡馬ノ改善ヲ圖ル爲ニ、今
日民有ノ種牡馬ガ、畜産組合其他ニ於
キマシテモ、馬産ノ諸種ノ關係カラド
ウシテモ惡クナル傾向ガアリ、經濟等
モ十分ニ行キマセヌノデ、民間ニ於ケ
ル種牡馬ノ繫養ニ困難ヲ感ジテ居ル次
第デアリマス、隨テ此民間ノ種牡馬ノ
飼養ノ獎勵ヲスル經費、其ニツノ事項

ガ、只今ノ種牡馬充實ニ關スル經費ト
云フ中ニ含マレテ居ルノデアリマス、
其中デ先程申上ゲマシタ金額ノ中デ、
種牡馬飼養——民有ノ種牡馬飼養ノ獎
勵ニ關スル經費ガ、昭和六年度ハ十二
萬七千七百四十三圓、昭和七年度ハ三
十六萬五千三百八十九圓デアリマス、
差引殘ガ、國有種牡馬ノ充實ニ關スル
經費ニナル譯デアリマス、ソレカラ昭
和六年度ニ於テ、競馬監督ニ關スル經
費ノ増加、是ハ競馬ノ施行ノ際ニ要ス
ル經費デアリマス、是ガ昭和六年度ニ
於テハ一萬五千七百四十九圓、七年度
以降ガ一萬五千三百三十二圓、是ハマダ豫
算ニ出テ居リマセヌガ、馬政調查會——
今日馬政委員會ガアリマスカ、是ハ
農林省內ニアリマシテ、官制ニ依ッテ居
ラナイノデアリマスカ、七年度ノ豫算
ニ一萬圓、是ハ今日若干ノ經費ガアリ
マスノデ、ソレノ差増額ニナツテ居リ
マスガ、官制ニ依ル權威アル馬政調查
會ニシタイト云フ考カラ、昭和七年度
ニ於テハ、從來アリマシタ經費ノ差増
額一萬圓ヲ見込メ、來年度豫算ニ計
上致シタイ積リデ居ルノデアリマス、
ソレデ此度ノ競馬法ノ改正ニ依ル財源
ノ中カラ、詰リ昭和七年度ニ於テハ五
十萬七千七百四十四圓、昭和七年度以降ハ
百一萬四千四百四十八圓ヲ、馬ニ關スル
新規ノ要求トシテ、昭和六年度ハ追加

豫算トシテ要求シテ居リマスシ、七年
度ハ今ノ計畫ニ依ッテ、之ヲ御要求シタ
イト云フ考ヲ有ッテ居リマス
○高橋(熊)委員 サウスルト、六年度
竝ニ後年渡ニ於テ行ハレルト云フノハ、
主ナルモノハ四ツノ事項デアッテ、牧
野改良獎勵費、ソレカラ種牡馬ノ充實
ノ經費、ソレカラ競馬監督ニ要スル經
費、ソレカラ馬政調查會ヲ官制ノ下ニ
行ハレル、其差増額一萬圓ヲ七年度以
降ニ支出シヨウト云フヤウナコトニ
承ッテ居タノデアリマスカ、サウスルト
民有種牡馬ノ改善ト云フコトハアリマ
スカ、洵ニ結構ナコト、思ヒマスカ、
是デ從來ノ缺陷ノアッタコトヲ、全部補
ヒガ付クト云フ御計畫ダラウト思フノ
デスカ、國有種牡馬千五百頭ヲ、今度
ハ此計畫ニ依ッテ維持シヨウ、民間ニ委
託繫養ヲ致シタモノヲ、今度ハ全部引
上ゲテ、國有トシテ御取扱ニナルト云
フコト、ソレカラ民間ニ不足デアッタ
所ノ種牡馬ニ對シテ相當ノ助成、或ハ
其他ノ方法デ以テ立行クヤウニ致スト
云フ計畫デ全部充實ヲ圖ラレルト云フ
ノデスカ、尙ホ是デモ既定計畫ニ缺陷
ガアルト云フコトデスカ
○戸田政府委員 此度ノ經費ノ範圍內
ニ於テハ、只今御話ヲ申上ゲタ事項ヲ
行ヒマシテ、出來ルダケ馬政計畫ノ遂
行上遺憾ナキヲ期シタイト云フ考カラ

出發シテ居ルノデアリマス
○高橋(熊)委員 御考ハ結構デアリマ
スカ、此計畫デ以テ、既定計畫ハ全部
御實行ガ出來ルト云フノカ、ソレトモ
尙ホ不足ガアルト云フノカ、之ヲ伺ッテ
置キタイノデアリマス
○戸田政府委員 既定計畫ノ方針ト致
シマシテハ、產馬ノ方針ハ馬ノ持久力
ニ重キヲ置キ其ノ體格ハ中等體尺者ノ
使用ニ適セシムルヲ標準トシ」云々ト
云フコトニナツテ居リマス、此外ニ必要
馬數ノコトモアリ、種馬ノ數ノ標準等
モ記サレテ居ルノデアリマシテ、種牡
馬ノ數ニ付キマシテハ、國有種牡馬ノ
數ハ千五百頭トシ、民間種牡馬ニ對シ
テハ相當ノ保護ヲ加ヘ四千五百頭ニ達
セシムコトヲ期ス」ト云フコトニナツ
テ居リマス、是ハ馬政計畫ノ綱領ノ第
三ニナツテ居リマスカ、其千五百頭トス
ルト云フコトハ、只今ノ種牡馬ノ充實
ノ計畫ニ依ッテ出來ルコトニナリマス、
ソレカラ「民有種牡馬ニ對シテハ相當
ノ保護ヲ加ヘ四千五百頭ニ達セシム
コトヲ期ス」ト云フコトニ對シマシテ
ハ、此度ノ計畫ニ依リマシテ、民有種
牡馬ノ飼養數ニ缺陷ヲ生ジテ、優良ナル
民有種牡馬ヲ保持スルニ非常ナ困難ナ
狀況ニアルノヲ、幾分緩和スルコトガ
出來ルト云フ積リデ此度ノ計畫ガ出來
テ居ルノデアリマス、ソレカラ馬政方

針ノ綱領ガ五箇條アリマシテ、其終リ
ノ「前項ノ改良計畫ト共ニ産業上ノ施
設及助長獎勵ノ爲行フベキ事項左ノ如
シ」ト云フ中ノ第四ニ「牧野ノ改良維
持ノ施設ニ付テハ只今ノ牧野ノ改良獎
勵費ニ依ッテ行ッテ行クコトガ出來ル
云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、
馬政計畫ニ付テ、實行致シテ行キマス
上ニ、遺憾ニ感ジテ居リマシタ點ヲ、
出來ルダケ此度ノ財源ニ依リマシテ遺
憾ヲ除去スルヤウニ努メタ次第デアリ
マス、尙ホ將來ニ於テ、財源其他豫算
ガ許ス場合ニ於テハ、各般ノ事項ニ付
テ其充實ヲ期スルト云フコトガ、萬全
ノ策トシテハ勿論當然デアリマスガ、
今日ノ豫算經理ノ實情ガラ申セバ、出
來ルダケノコトヲ考ヘタ次第デアリマ
ス

○高橋(熊)委員 只今御丁寧ノ御答辯
ヲ承ツタノデスガ、サウスルト云フト、
是ハ今ノ財政上ニ於テ出來ルダケノコ
トヲヤッタト云フノデ、向フ何年間之ヲ
行ヘバ、既定目標ニ到著スルコトガ出
來ル、斯ウ云フコトハ此場合御考ニナ
ラナイ、ヤハリ從來ノ缺陷ハ只今幾分
緩和ガ出來ルト御話ニナツタガ、幾分緩
和ガ出來ル位ノ程度ノ計畫ト承知シテ
宜シイノデゴザイマスカ

○戸田政府委員 個々ニ付テ申セバ、
種牡馬ノ充實ニ付テハ、馬政第二期計

畫綱領ニ於テ、千五百頭ト書イテアル
ノヲ、今二百五十頭缺陷ノアル所ヲ充
實シマシテ、千五百頭トスル譯デアリ
マスカラ、缺陷ハアリマセス、此計畫
通りニナル譯デアリマス、ソレカラ牧
野ノ改良維持ニ付キマシテモ、改良維
持ノ施設ガ此度ノ豫算ニ依ッテ行フコ
トガ出來マス、昨日申上ゲマシタヤウ
ニ、三十年計畫行フコトガ出來ルノ
デアリマスカラ、宜イト思ヒマス、ソ
レカラ民有種牡馬ノ保護ニ付キマシテ
モ、缺陷ノ填補ヲシテヤルト云フコト
デアリマスカラ、今迄ノ缺陷ヲ補フコ
トガ出來ル、唯金サヘアレバ、多々益
便ズルト云フコトヲ申上ゲマシタノ
ハ、是ハ程度ノ問題デアリマスカラ、
或ハ牧野ノ改良施設ニシマシテモ、或
ハ民有種牡馬等ニ致シマシテモ、多ケ
レバ多イ程宜イト云フコトハ言ヘルダ
ラウト思フノデアリマス、今ノ種牡馬
ノ點ハ頭數カラ來テ居リマスガ、其他
ノモノハ出來ルダケ金ガ多ケレバ、ソ
レガ有效ニ使ヘレバ宜イト云フコトニ
ナリマスカラ、其意味デ申上ゲタ譯デ
アリマシテ、唯幾分ノ缺陷ヲ補フト云
フ意味デナクシテ、大體ニ於テ今申上
ゲタ三事項ニ付テノ徹底ヲ期シタイト
考ヘテ居ル次第デアリマス

○高橋(熊)委員 私ノ主ニ見當ヲ著ケ
テ御伺致シタノハ、成程種牡馬ノ中、國

有種牡馬ガ千五百頭、民間ノガ四千五

百頭、合セテ六千頭ノ種牡馬ヲ維持ス
ルコトガ出來レバ、百五十萬頭ノ馬ハ
將來トモ維持シテ行クコトガ出來ル、
斯ウ云フ當初ノ計畫ナリト吾々ハ承ッ
テ居ッタノデアリマス、然ルニ國有種牡
馬ニ於テ、既ニ二百五十頭ト云フモノ
ハ民間ニ繋養セシムルト云フコトニ
ナッテ居ッタト云フバカリデナク、四千
五百頭ノ民有種牡馬ト云フモノハ著シ
ク缺陷ガアルノデアリマス、ソレハ所
定ノ馬種ガ得ラレナカッタバカリデナ
ク、頭數ニ於テモ尠カラザル缺陷ガア
タラウト思フ、其當時ノ十三年アタリ
デハ、既ニ四千五百頭ノ中ノ八百ニ垂
ントスル七百數十頭ノ不足ガ生ジテ
居ッタト吾々ハ記憶致スノデアリマス、
其後此缺陷ガ殖エルト、七百頭ガ千頭
ニナラウトモ、七百頭ガ五百頭ニナ
タリ、四百頭ニナッタリスルト云フコ
トハ、ドウシテモ想像シ得ナイノデア
リマス、ソレデアリマスカラ、將來平
年度ニ於キマシテ三十六萬圓、六年度
ニ於テ十二萬七千圓ヲ之ニ御費シナ
リマシテモ、是ハ何年掛カッタ今マデノ
缺陷ヲ補ヒ得ルカト云フコトニ付テハ
心細イノデ、幾分緩和ヲサレルト云フ
程度シカヤレスノデハナイカト思フ、
即チ百五十萬頭維持スルニ付テハ、今
日ハ陸軍省ノ御調ハドウ云フ具合ニ

ナッテ居ルカ、島嶼デアルトカ、所謂島

デアルトカ、官有ノ馬匹ヲ計算ニ入レ

ナイト言ハレテモ、是ハ僅カナモノデ
アッテ、既ニ十數萬ノ行違ヒガ出テ居ル
ノデアアル、之ヲ増スニ付テハ、相當ナ
ル馬匹ノ増殖計畫ヲ立直サナイト、私
ハ其缺陷ヲ補ヒ得ナイコトデハナイカ
ト考ヘテ居ルノデス、ソレデアリマス
カラ、此既定計畫ハ何年デ遂行シ得ル
目的デ此案ヲ立テラレタノデアアルカト
云フコトヲ、私ハ諄イヤウデアリマス
ガ伺ッテ居ルノデス、既ニ今日ハ多大ノ
缺陷ヲ生ジテ居ルノデス、殊ニ種牡馬
ノ充實計畫ニ於テ多大ノ缺陷ガアルノ
デス、之ヲ充實スルニハドウスルカト
云フコトハ、今日ノ馬事振興上ニ於ケ
ル所ノ最大ナ事項デアルトモ考ヘテ居
ルノデスカラ、此コトヲ明ニ致シタイ
ト思ッテ、私ハ質問ヲ致シテ居ル次第
デ、此趣旨ニ於テノ御答辯ヲ承リタイ
ト思フノデアリマス

○戸田政府委員 種牡馬ヲ千五百頭ニ
致シマスノハ、二百五十頭ヲ引上ゲテ
國有ニ直スコトガ出來ル爲ノ經費デア
リマシテ、是ハ永久的ニ千五百頭ヅ、
維持出來ルヤウニ、年々豫算ヲ取ッテ
ヤッテ行ク積リデアリマス、ソレカラ民
間ノ種牡馬ノ飼養ノ獎勵ニ付キマシテ
モ、年々補助金ヲ交付ヲ致シマシテ、
是モヤハリ將來長ク只今ノ程度ノ金デ

年々缺損額ヲ補ッテ行ク譯デゴザイマス

○高橋(熊)委員 是ハヤレルダケヤツテ見ルト云フコトノ計畫ニ過ギナイヤウニ私共ハ諒解ヲスル外ナイヤウニモ思ハレルノデアリマスガ、只今申上ゲマス通りニ、種牡馬ノ不足ト云フモノハ、非常ナ數ニナツテ居ルト思ヒマスガ、先ヅ第一ニ御當局ハ、今日ハ四千五百頭ヲ民有ニ繋養スルコトヲ期待サレカ、其中種牡馬ハ何頭アリマスガ、先ヅ之ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス

○高橋(熊)委員 是ハヤレルダケヤツテ見ルト云フコトノ計畫ニ過ギナイヤウニ私共ハ諒解ヲスル外ナイヤウニモ思ハレルノデアリマスガ、只今申上ゲマス通りニ、種牡馬ノ不足ト云フモノハ、非常ナ數ニナツテ居ルト思ヒマスガ、先ヅ第一ニ御當局ハ、今日ハ四千五百頭ヲ民有ニ繋養スルコトヲ期待サレカ、其中種牡馬ハ何頭アリマスガ、先ヅ之ヲ承ツテ置キタイト思ヒマス

○高橋(熊)委員 付ケマスガ、サウスルト、最近七百ト言ヘバ、當時ト何等變リガナイ、ソレデ此民有種牡馬ト云フモノハ、何等改善ノ跡ガナイト云フヤウナコトニ認メラレル、之ヲ如何ニスルカト云フヤウナコトニ付テハ、改メテ又他日御伺ヒスルコトニ致シマス

○戸田政府委員 只今ハ六千頭ノ種牡馬ノ計畫ニ比較スレバ、最近三箇年ノ所ヲ見マシテ、五六百乃至七百頭位ノ不足デアリマス

○中馬委員長 御諮リヲ致シマス、三時カラ速記ノ都合モアリマスシ、本會議ノ方デ重要法案ガ提案サレマスカラ、隨ッテ今日ハ散會致シマス、明日モ成ルベク早ク開會スル積リデアリマス
午後三時十分散會

○高橋(熊)委員 五六百乃至七百頭ト云フノハ、年ニ依ッテデセウガ、七百頭以上ノ不足ガアッタノハ、大正十三年ノ年デアリマスガ、今日ハソレガ幾分カ、五六百頭ト云フノハ下ツテ居リマスガ、近年ハ五六百ノ數字ニナツタノデゴザイマスガ、ソレトモ七百ト云フ數字ハ近年モ維持サレテ居リマスガ、五六百乃至七百ト云フノハ大變隔リガアルヤウニ思ヒマス

○戸田政府委員 年ニ依ッテ違ヒマスノヲ一緒ニ申上ゲタカラ、今ノヤウニナリマシタノデ、最近ニ於テハ約七百頭ト申上ゲレバ宜イト思ヒマス